第２章　不登校を経験した生徒および保護者へのアンケート調査（単純集計）

2-1　一次調査の回答者の属性

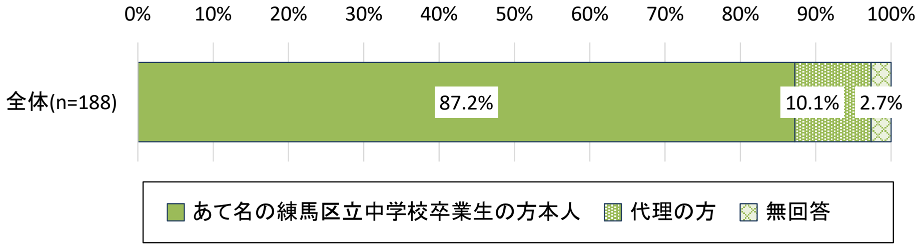
一次調査の本人票の回答者は、「あて名の練馬区立中学校卒業生の方本人」が約 9 割、「代理の方」が約 1 割であった（図表 2-1-1）。「代理の方」は 8 割以上が「母親」（図表 2-1-2）で、代理回答の理由として、「本人が当時のことを思い出したくないから」などがあった。

本人票回答者の性別は男女で同一の割合であった（図表 2-1-3）。また、卒業年度が新しくなるにつれて、回答者数が多くなる傾向があった（図表 2-1-4）。

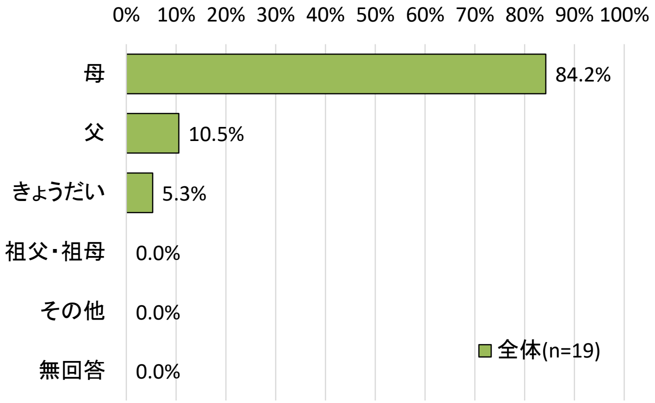
保護者票の回答者は、9 割以上が「母親」であった（図表 2-1-5）。

【一次本人・問 1】（単一回答）
このアンケートに回答いただくのは、あて名の練馬区立中学校卒業生の方本人ですか。代理の方が回答する場合には、差しつかえなければ、どなたが回答いただいたかや、代理で回答される理由についても教えてください。

図表 2-1-1 アンケート調査の回答者（一次本人）

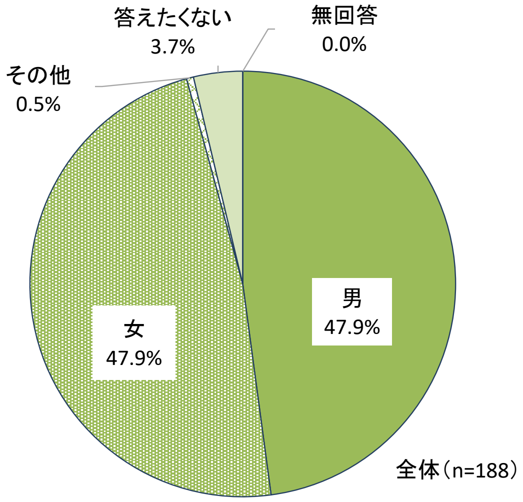


図表 2-1-2 代理での回答者（一次本人）[6]



【一次本人・問 2】（単一回答）
あなたの性別をお答えください。[7]

図表 2-1-3 アンケート対象者の性別（一次本人）



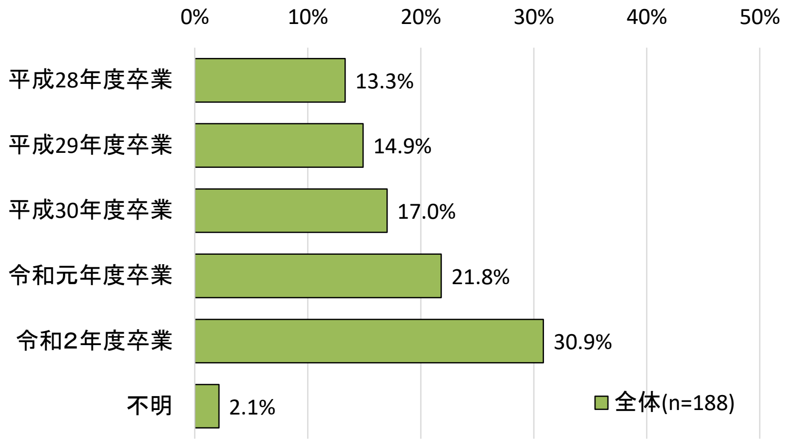
---

6 選択肢の順番を、回答割合が高い順に掲載しているグラフがある。そのため、選択肢の順番が調査票と異なる場合がある。（以下同様）

7 代理回答の場合であっても、「あなた」は、アンケート対象の練馬区立中学校卒業生の方のことを指す。（以下同様）

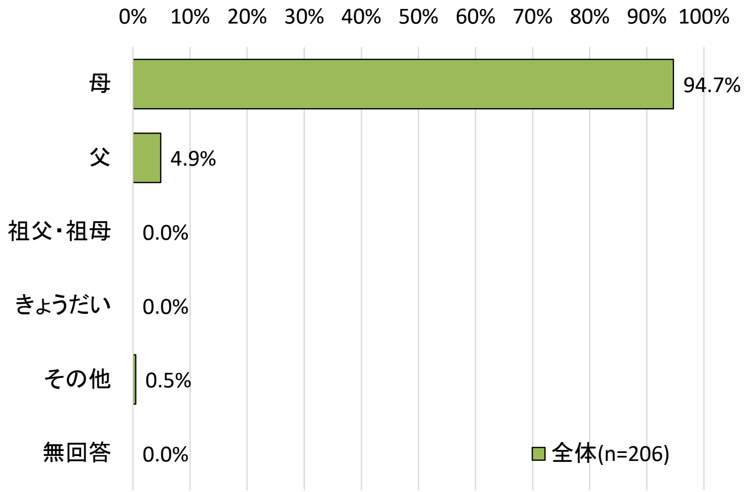
【一次本人・問 3】（数値で回答）
あなたの生まれた年月をお答えください。[8]

図表 2-1-4　アンケート対象者の卒業年度（一次本人）



【一次保護者・問 1】（単一回答）
このアンケートに回答いただくのは、あて名のお子さん（練馬区立中学校卒業生の方）からみてどなたにあたりますか。

図表 2-1-5　保護者票の回答者（一次保護者）



[8] 生年月の回答から卒業年度を判別した。

2-2　不登校の状況

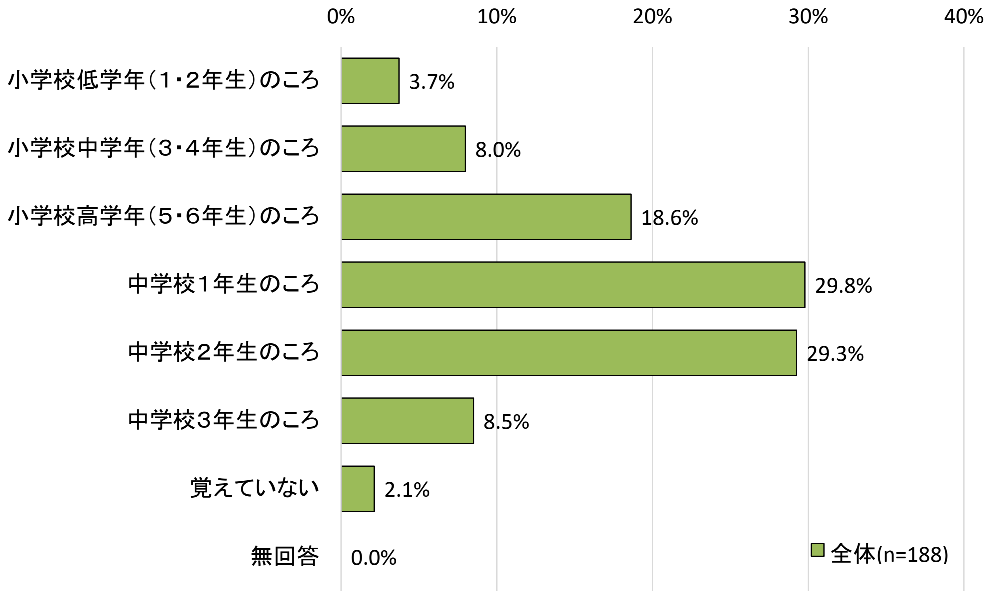
2-2-1　学校を休み始めた時期、休んでいた日数

学校を休み始めた時期に関しては、「中学校 1 年生のころ」、「中学校 2 年生のころ」が多く、合わせて約 6 割となっている。他方で、小学生のころから休み始めている方も約 3 割いる。この回答は保護者票でもほぼ同様である（図表 2-2-1-1、図表 2-2-1-2）。

欠席日数は、学年が上がるにつれて長くなる傾向にあり、中学校 3 年生のときには、半数以上の方が 1 年間で「180 日以上」欠席していた（図表 2-2-1-3）[9]。

【一次本人・問 10】（単一回答）
あなたが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。

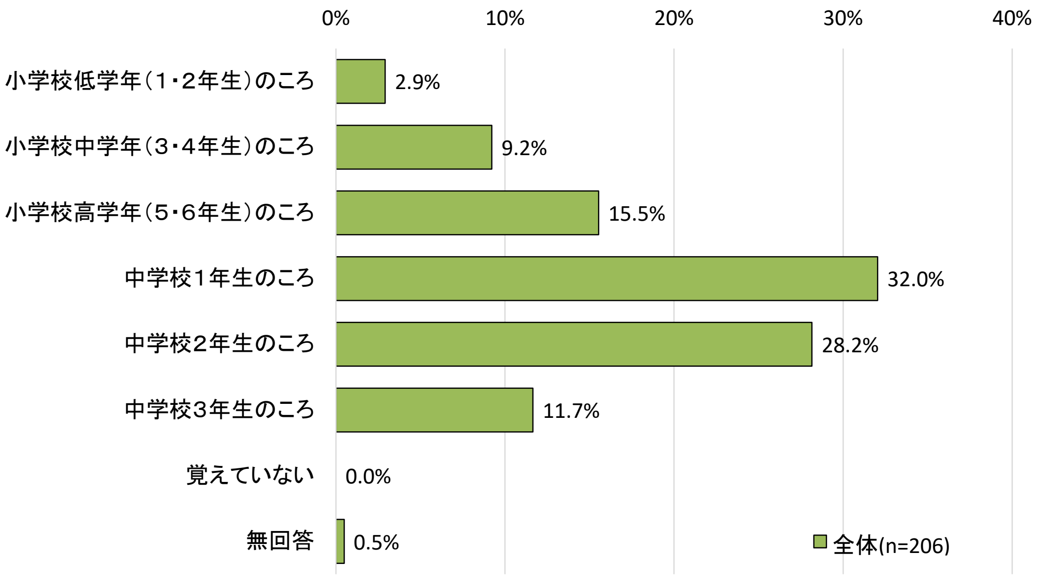
図表 2-2-1-1　学校を休み始めた時期（一次本人）



[9] 今回の調査では、中学校 3 年生時に不登校であった方を対象としている点に留意が必要である。なお、欠席日数については、不登校ではなかった学年も含まれることや、保護者の認識による回答のため、欠席日数が「0 日～30 日くらい」と、本来の不登校の定義には該当しない場合の回答結果も得られている。

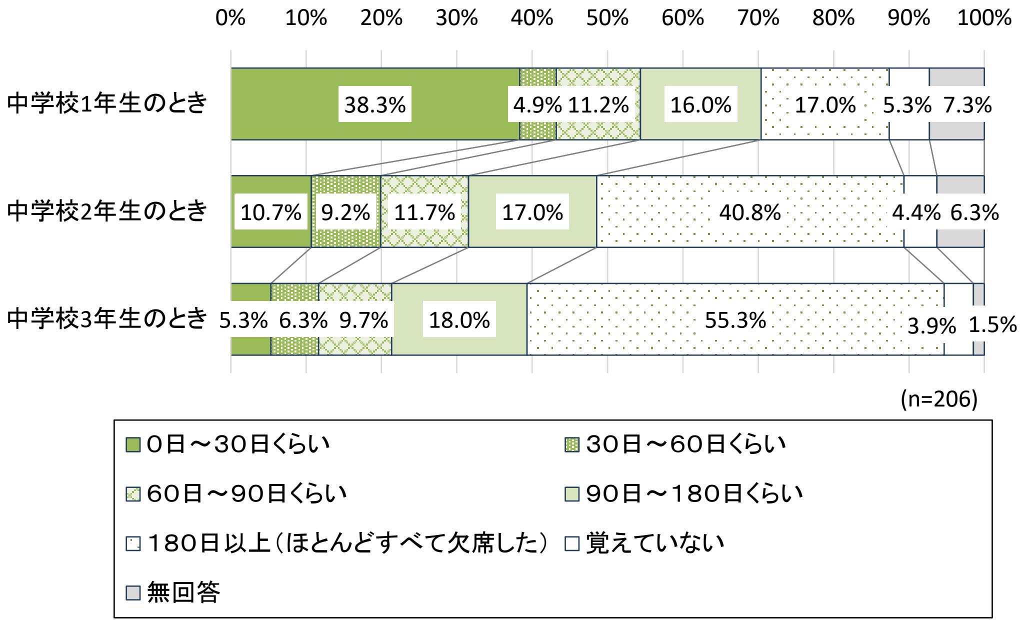
【一次保護者・問 3】（単一回答）
お子さんが学校をよく休み始めたのは、何年生のころですか。

図表 2-2-1-2　学校を休み始めた時期（一次保護者）



【一次保護者・問 2】（単一回答）
お子さんが中学生のとき、１年間で学校を欠席した日数（病気やけがによる欠席や夏休み等の長期休暇中は除く）をそれぞれお答えください。

図表 2-2-1-3　中学校での欠席日数（一次保護者）



2-2-2　学校を休み始めたときのきっかけ

学校を休み始めたきっかけは多岐にわたる。本人の回答として最も割合が高かったのは「身体の不調」（50%）で、次いで「学校やクラスに合わなかった」（43%）、「友達のこと（いやがらせや、いじめがあった）」（38%）、「先生のこと」（35%）となっている（図表 2-2-2-1）。

保護者の回答としては、「身体の不調」、「友達のこと（いやがらせや、いじめがあった）」の回答割合が高い傾向は本人と同様であった。一方で「学校やクラスに合わなかった」は本人よりも低く（27%）、反対に「先生のこと」は本人よりも高かった（42%）（図表 2-2-2-2）。

本人・保護者ともに約９割が「学校のこと」のいずれかがきっかけと回答した（図表 2-2-2-3）。

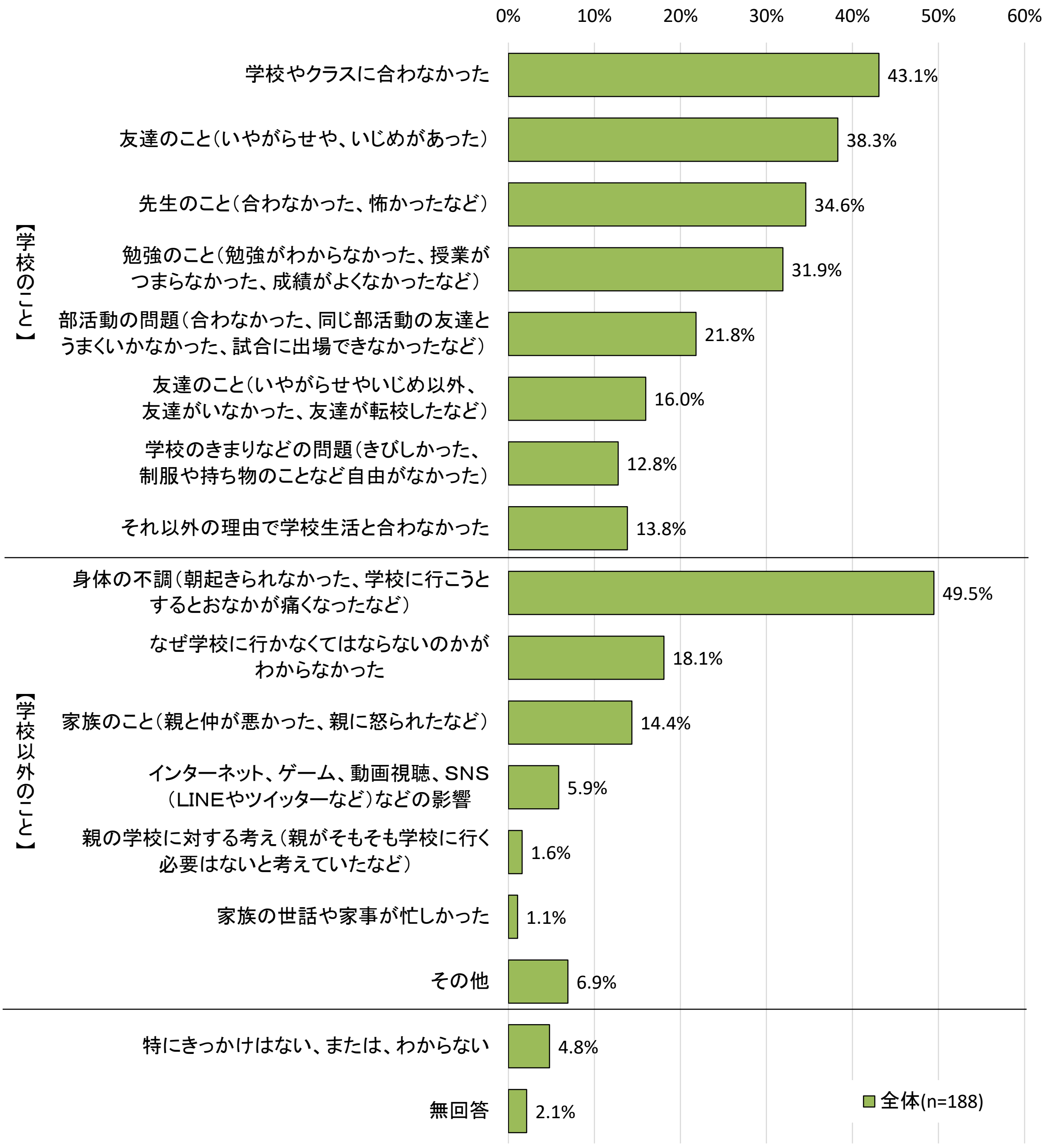
二次調査でも、本人の回答として、「いじめ・いやがらせ等」や「人間関係、学校やクラスの雰囲気」、「先生との関係」に関する回答が比較的多く見られた[10]（図表 2-2-2-4、図表 2-2-2-5）。

[10] 一次調査が複数回答形式であるのに対して、二次調査は自由記述による回答である。「身体の不調」に関して二次調査で該当件数が相対的に少ないのは、主要因であるか副次的な要因であるかの違いであろうと推察される。

【一次本人・問 12】（複数回答）

あなたが学校を休み始めたときのきっかけは何ですか。

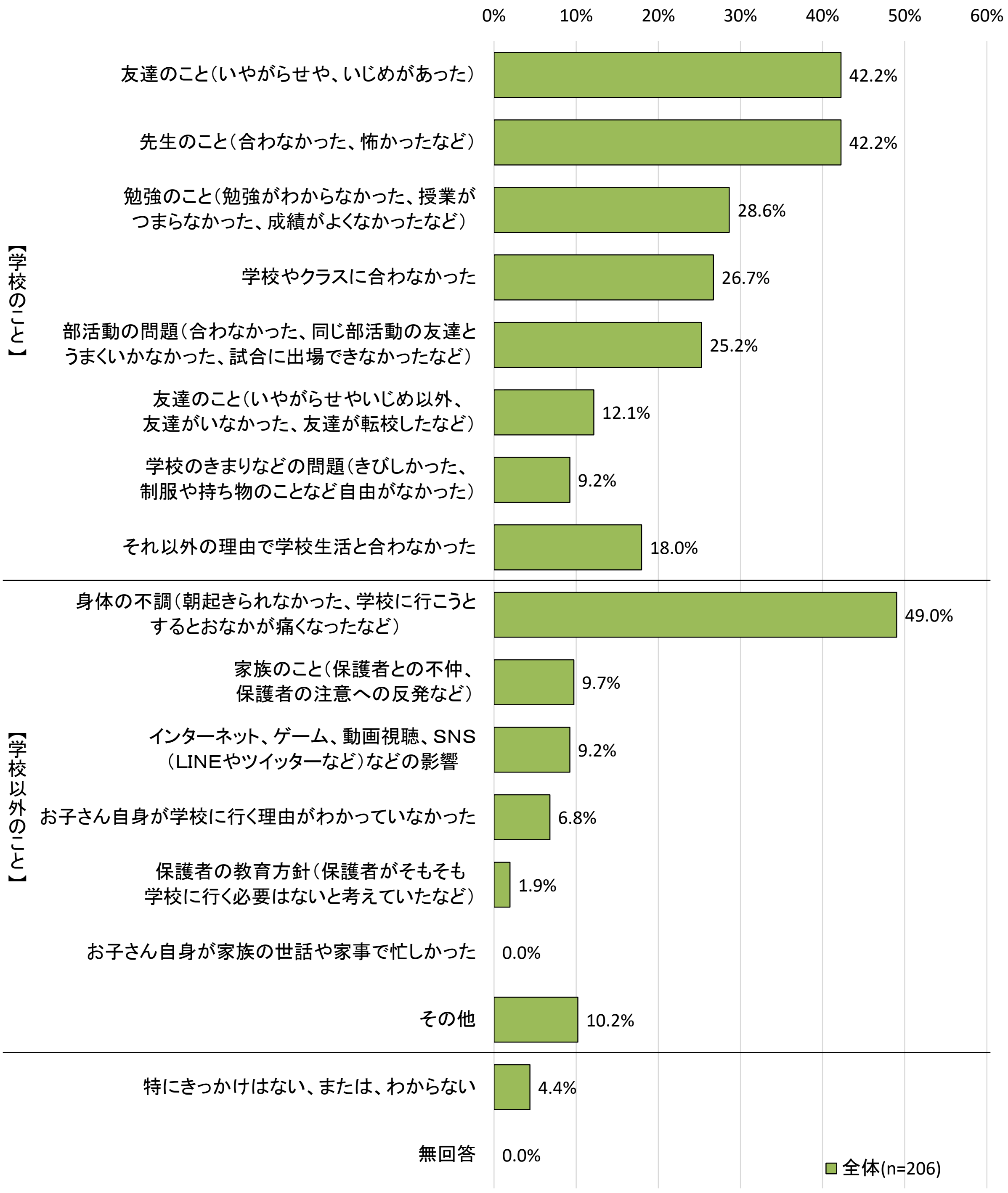
図表 2-2-2-1 学校を休み始めたときのきっかけ（一次本人）



【一次保護者・問 4】（複数回答）

お子さんが学校を休み始めたときのきっかけは何だと考えますか。

図表 2-2-2-2　学校を休み始めたときのきっかけ（一次保護者）



図表 2-2-2-3 学校を休み始めたときのきっかけ（一次本人、一次保護者）

分類	本人 (n=188)	保護者 (n=206)
学校のこと[11]	85.6%	88.8%
学校以外のこと[12]	64.4%	60.7%

[11] 「友達のこと（いやがらせや、いじめがあった）」、「友達のこと（いやがらせやいじめ以外、友達がいなかった、友達が転校したなど）」、「先生のこと（合わなかった、怖かったなど）」、「勉強のこと（勉強がわからなかった、授業がつまらなかった、成績がよくなかったなど）」、「部活動の問題（合わなかった、同じ部活動の友達とうまくいかなかった、試合に出場できなかったなど）」、「学校のきまりなどの問題（きびしかった、制服や持ち物のことなど自由がなかった）」、「学校やクラスに合わなかった」、「それ以外の理由で学校生活と合わなかった」のいずれかを回答した場合。

[12] 「家族のこと（親と仲が悪かった、親に怒られたなど）」、「親の学校に対する考え（親がそもそも学校に行く必要はないと考えていたなど）」、「家族の世話や家事が忙しかった」、「身体の不調（朝起きられなかった、学校に行こうとするとおなかが痛くなったなど）」、「インターネット、ゲーム、動画視聴、ＳＮＳ（ＬＩＮＥやツイッターなど）などの影響」、「なぜ学校に行かなくてはならないのかがわからなかった」、「その他」のいずれかを回答した場合（保護者の場合は一部表現が異なる）。

【二次・問 1】（自由記述回答）
あなたが学校を休み始めた時のきっかけや理由はどのようなことでしたか。できるだけ具体的に教えてください。

図表 2-2-2-4 学校を休み始めたときのきっかけや理由（二次、自由記述回答を分類）[13]

分類	該当件数
いじめ・いやがらせ等	17
人間関係、学校やクラスの雰囲気	15
先生との関係	11
勉強の遅れ	6
体調不良	6
自分でも分からない	4
面倒になった	3
その他	7
無回答（回答欄空欄）	2

※52 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

[13] 「分類」は、自由記述の回答内容を確認・判別し、分類したもの。「該当件数」は、分類別に該当件数をカウントしたもの。一人の人が複数の分類に該当する内容を回答している場合は、それぞれの分類でカウントしている。（以下、二次調査の自由記述回答について同様）

図表 2-2-2-5 学校を休み始めたときのきっかけや理由（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
いじめ・いやがらせ等	いじめ。１人のクラスメイトから嫌がらせが毎日あった。
	嫌がらせ（同級生の）に耐えきれなくなったため。悪口や暴力など。
	いつも一緒にいた子ともめてしまい、仲間外れにされて学校に行きづらくなった。
人間関係、学校やクラスの雰囲気	クラスに友達がいなかったから。
	人間関係で気の合わない人と関わることが嫌になり、段々と行かなくなった。
	他人とうまく話すことができず、気疲れしてしまったからです。
先生との関係	授業で自分がやらなくてはいけないことが分からず、困惑していたら怒られました。なぜ怒られたか分からず、周りも注目したためとても恥ずかしく、それからその先生を避けるため休みが増え、段々ほかの授業も遅れを取り、学校に行くのが嫌になりました。
	保健室登校をした後、教室に行く途中、担任に挨拶しに行ったところ激しいお怒りにあい、トラウマになり学校に行かなくなりました。
勉強の遅れ	授業に追いつけなかった。
体調不良	起立性調節障害になり、朝起きることが苦痛になったことがきっかけです。
自分でも分からない	理由はよく分からない。そのため、解決策が見つからなかった。
面倒になった	面倒になって徐々に休み始めた。

2-2-3　学校を休んでいたころの気持ち

中学校 3 年生のときに学校を休んでいたころの気持ちについて、「あてはまる」と「少しあてはまる」を合わせた割合を見ると、「自由な時間が増えてうれしかった」(53%) や「ほっとした・楽な気持ちだった」(51%) が 5 割程度あるが、「進路・進学に対する不安があった」(73%) や「自分が他の人にどう思われているかが不安だった」(70%)、「勉強の遅れに対する不安があった」(69%) など、不安があったことの方が約 7 割と高い (図表 2-2-3-1)。

中学校 3 年生のときに学校を休みがちだったことをどう思うかについては、「学校に行けばよかった」の割合は約 2 割で、「学校に行かないのはしかたがなかった」や「学校に行かなくてよかった」との割合もそれぞれ約 2 割程度と、多様な回答が得られた (図表 2-2-3-2)。

中学校 3 年生のときに、勉強を続けやすかったと思う方法については、「適応指導教室 (トライ、ぱれっと、つむぎ) に通う」[14]が約 4 割、「保健室や相談室など学校内の別室で学習する」が約 3 割と高い。「配信された授業などの動画を好きなときに視聴する」や「デジタル教材や学習アプリを使って学習する」、「オンライン授業にリアルタイムで参加する」など ICT 機器を活用した学習方法については約 2 割から約 3 割となっている (図表 2-2-3-3)。

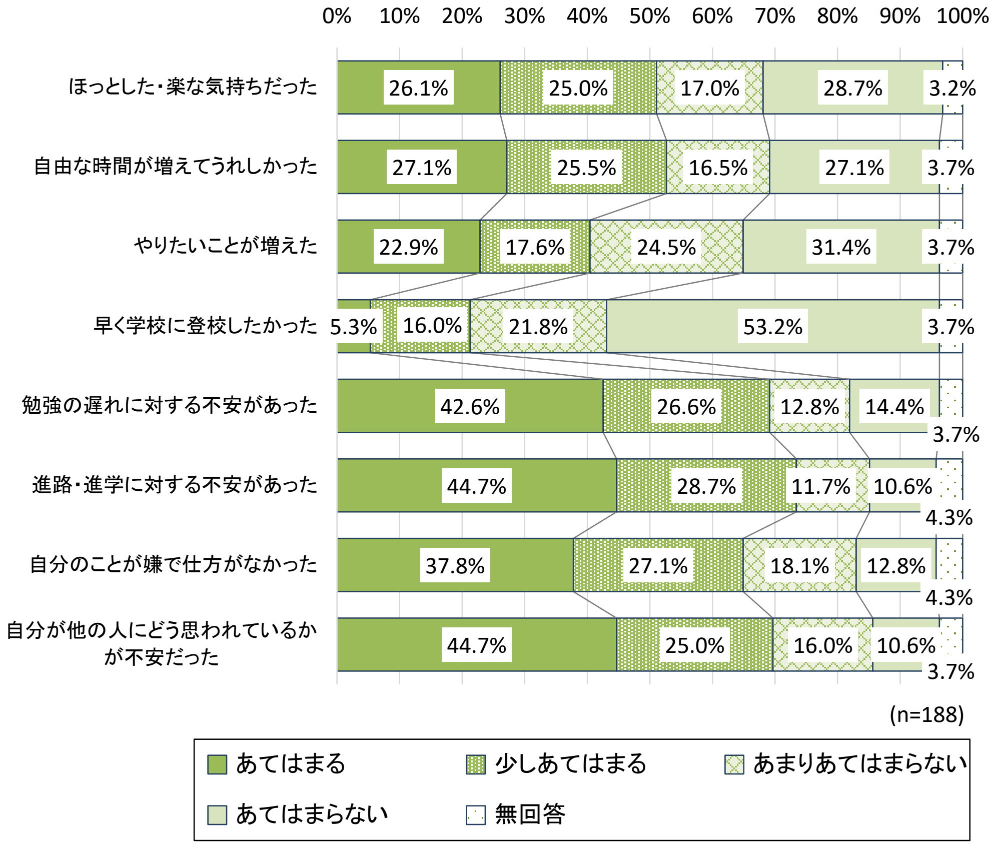
[14] 適応指導教室：区内在住の不登校児童生徒に対して、心の安定を図るための相談支援や集団生活への適応を図るためのグループ活動、児童生徒一人一人が希望する学習活動を行い、社会的自立ができるよう支援を行う事業。練馬区では小学生対象の事業を「フリーマインド」、中学生対象の事業を「トライ」と呼称している。

居場所ぱれっと：適応指導教室への通室や学校内の別室登校が困難な不登校の児童生徒が過ごせる場所として生活習慣、学習習慣の形成や社会性を育成するための支援を行う事業。「ぱれっと」と呼称している。

光が丘第一分室つむぎ：特別な支援を要する区内在住の不登校児童生徒に対して個別の学習支援を行う適応指導教室事業。「つむぎ」と呼称している。

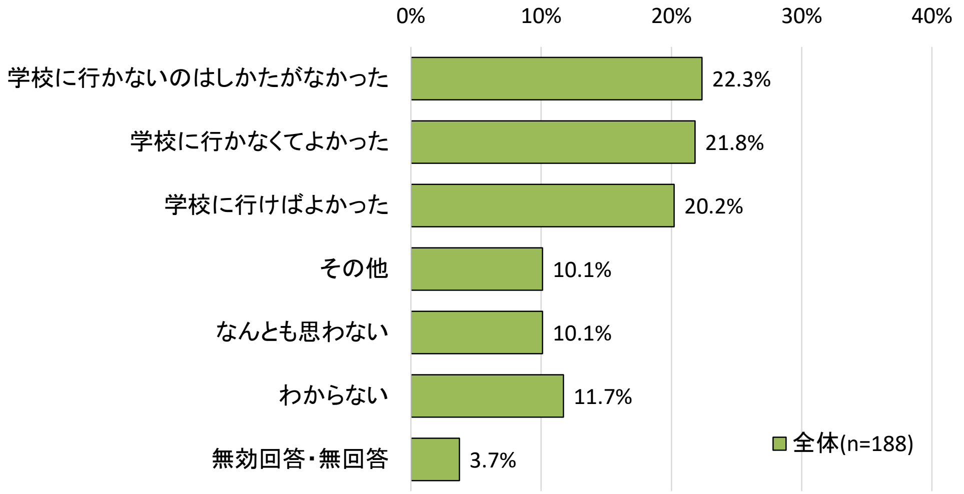
【一次本人・問 11】（単一回答）
あなたが中学校３年生のときに学校を休んでいたころの気持ちとして、あてはまるものをそれぞれ選んでください。

図表 2-2-3-1　中学校３年生のときに学校を休んでいたころの気持ち（一次本人）



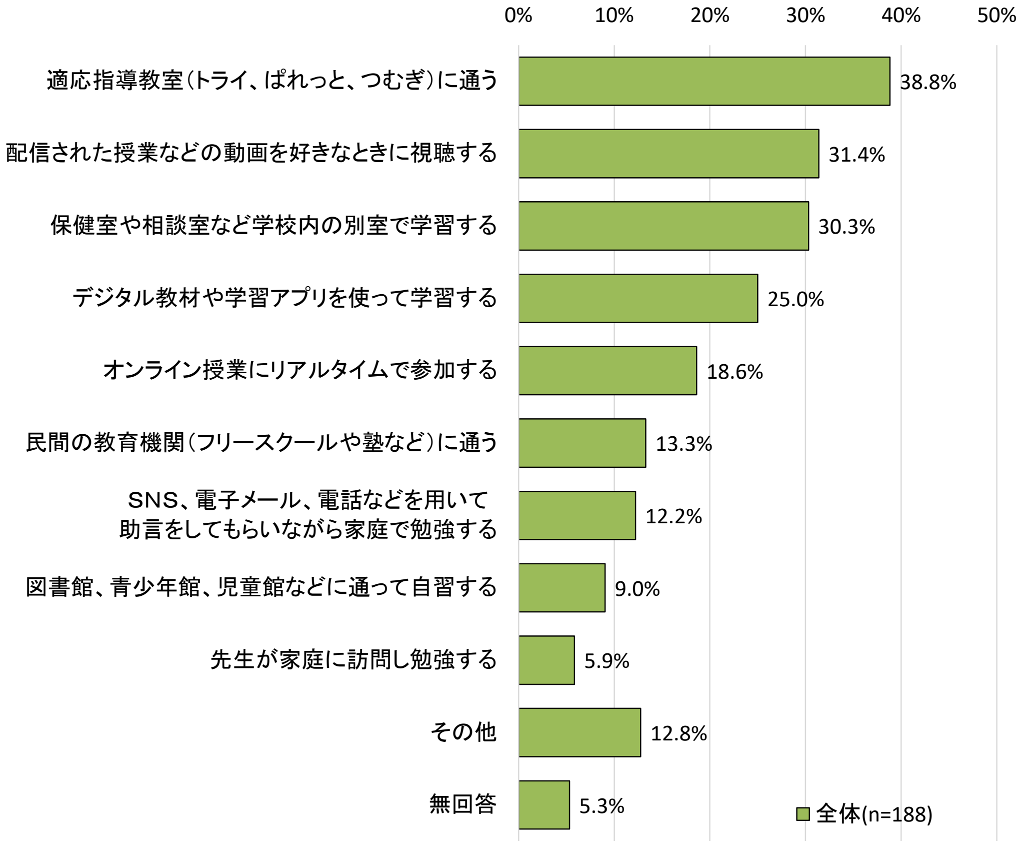
【一次本人・問 17】（単一回答）
いま考えると、中学校３年生のとき、学校を休みがちだったことをどう思いますか。

図表 2-2-3-2　中学校3年生のときに学校を休みがちだったことをどう思うか（一次本人）



【一次本人・問 14】（複数回答）
あなたが中学校３年生だったとき、どのような方法だったら勉強を続けやすかったと思いますか。

図表 2-2-3-3　中学校 3 年生のときに勉強を続けやすかったと思う方法（一次本人）



2-2-4　困っていたこと、必要としていた手助け

中学校３年生のときに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのにと思ったこととしては、「進学について」（47%）、「学校の勉強について」（45%）、「人間関係について」（42%）、「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」（37%）が上位にあがっている（図表 2-2-4-1）。

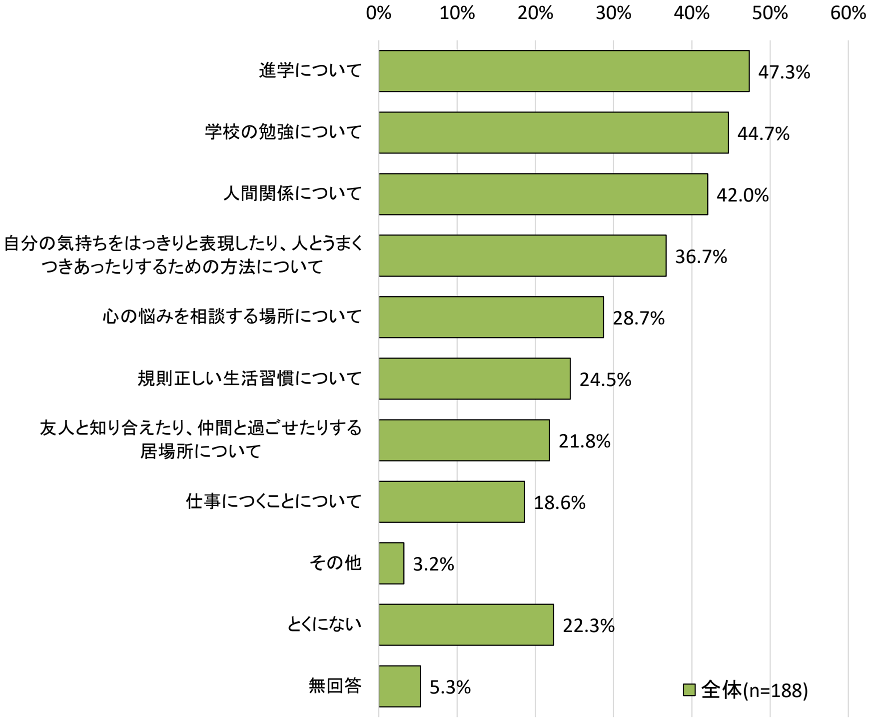
二次調査でも、不安だったり困ったりしていたこととして、「進路・受験のこと」や「勉強のこと」に関する回答が見られた（図表 2-2-4-2、図表 2-2-4-3）。また、欲しかった手助けとしては、「教室以外の居場所や勉強できる場所」、「一人で過ごせる場所など」といった回答が見られた（図表 2-2-4-4、図表 2-2-4-5）。

一方で、どちらの調査でも、「手助けなどがあればいいのにと思ったこと」や「欲しかった手助け」について、２割程度は「特にない」と回答している（図表 2-2-4-1、図表 2-2-4-4）。

保護者が、誰かに相談できたり、手助けがあればいいのにと思ったことでは、「進学について」の割合が最も高いが、ほかの回答も比較的多く、支援や相談のニーズがある（図表 2-2-4-6）。

【一次本人・問 16】（複数回答）
あなたが中学校３年生のとき、次のようなことについて誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのにと思ったことがありますか。

図表 2-2-4-1　中学校 3 年生のときに、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのにと思ったこと（一次本人）



【二次・問 2】（自由記述回答）
あなたが学校をよく休んでいたころに、不安だったり困ったりしていたことがあれば、教えてください。

図表 2-2-4-2 学校をよく休んでいたころに、不安だったり困ったりしていたこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
進路・受験のこと	16
勉強のこと	14
(漠然とした) 将来のこと、これからのこと	12
体調のこと	10
周りの反応	8
どうしてよいか分からなかった	5
人に対する恐怖心	3
孤独感	3
生活リズムの乱れがあった	2
罪悪感	2
その他	9
特になし	3
無回答（回答欄空欄）	2

※52 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-2-4-3 学校をよく休んでいたころに、不安だったり困ったりしていたこと
（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
進路・受験のこと	どこの高校に入学できるのか、全然勉強していなかったので不安だった。
	進学できるか、進学先に毎日通うことができるか不安だった。
	３年間の半数以上を休んでいたため、進路の不安が大きく、自分は進学も就職も一生できないんじゃないかと、毎日不安だった。
勉強のこと	同級生と学力の差がでてくるのが不安だった。
	学校を休んでいたので人との勉強の差があって不安だった。
(漠然とした) 将来のこと、これからのこと	将来、普通と呼ばれる仕事や生活ができるのか不安だった。
	これからどうなるのかなーとは思っていた。
体調のこと	考えても分からないことばかり考えてしまうようになり、体調もどこかすっきりせず、不快感を常に感じていた。
	これからの人生このままの体調だったらどうしようという不安。
周りの反応	休んでいることをほかの人はどう思っているんだろうと怖い気持ちがありました。
どうしてよいか分からなかった	不安でどうしたらよいのか、何をしたらよいのか分からなかった。
人に対する恐怖心	将来の不安がありつつも人や環境が怖くなりなかなか外に出られなかった。
孤独感	勉強面でも精神面でも周りの同級生から置いていかれている感じでした。孤独だなと日々思ってました。
生活リズムの乱れがあった	生活リズムが崩れてしまったことで、高校についていけるか不安だった。
罪悪感	周りの人（先生や家族）に心配かけていたことが悲しかった。

【二次・問 3】（自由記述回答）
あなたが学校をよく休んでいたころを振り返って、「あの時にこのような手助けがほしかった」と思うことがあれば、教えてください。

図表 2-2-4-4 学校をよく休んでいたころに「このような手助けがほしかった」と思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教室以外の居場所や勉強できる場所	8
一人で過ごせる場所など	7
相談相手	5
進路や将来のことについての支援	2
その他	10
特になし	12
無回答（回答欄空欄）	13

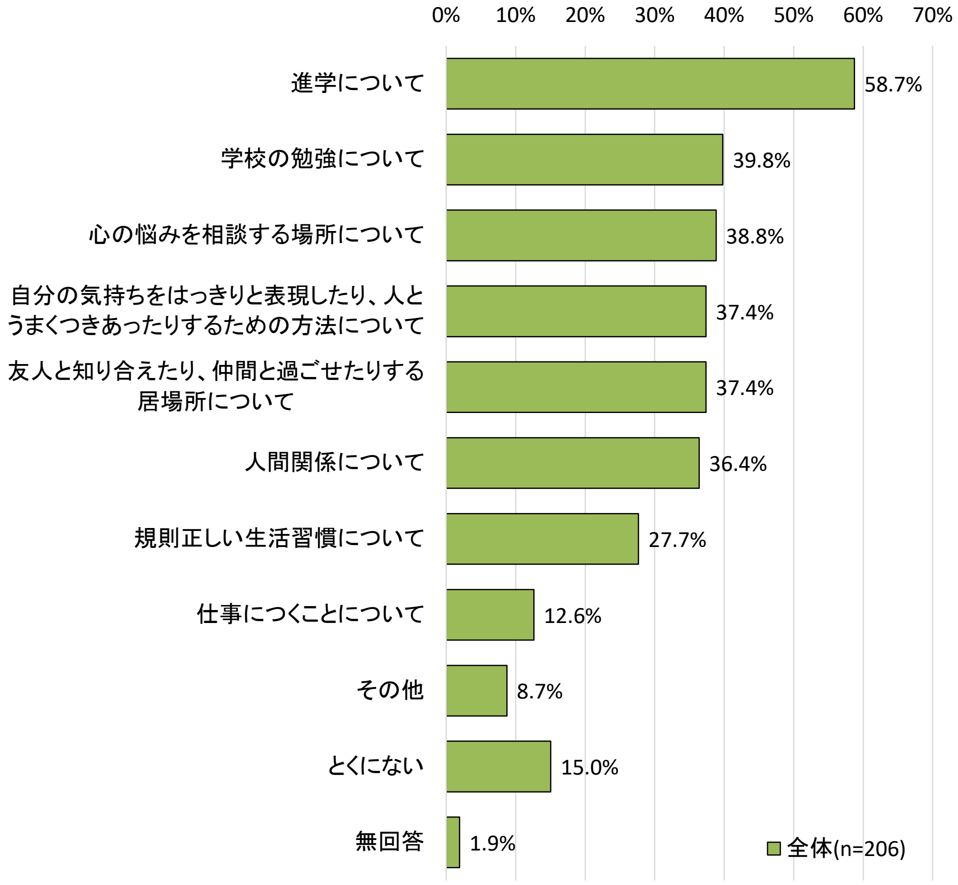
※52 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-2-4-5　学校をよく休んでいたころに「このような手助けがほしかった」と思うこと（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
教室以外の居場所や勉強できる場所	学校の授業を家や学校の相談室等で受けることができればよかった。
	周りの目を気にしないで勉強できて、何か分からないことがあれば教えてくれる、自習室みたいな場所が欲しかった。
一人で過ごせる場所など	家でもどこでも一人で過ごせて、気持ちの整理をつける環境が欲しかった。
相談相手	気楽に何でも話せる先生、場所が欲しかった。仲間に入れるように手伝ってくれる大人が欲しかった。
進路や将来のことについての支援	学校を休んでいても進学できる高校があることをもっと早く知りたかった。

【一次保護者・問 9】（複数回答）
お子さんが中学校３年生のときに、お子さんに関する次のようなことについて、保護者の方ご自身が、誰かに相談できたり、手助けなどがあればいいのにと思ったことがありますか。

図表 2-2-4-6　子供が中学校3年生のときに、子供のことについて、保護者自身が誰かに相談できたり、手助けがあればいいのにと思ったこと（一次保護者）



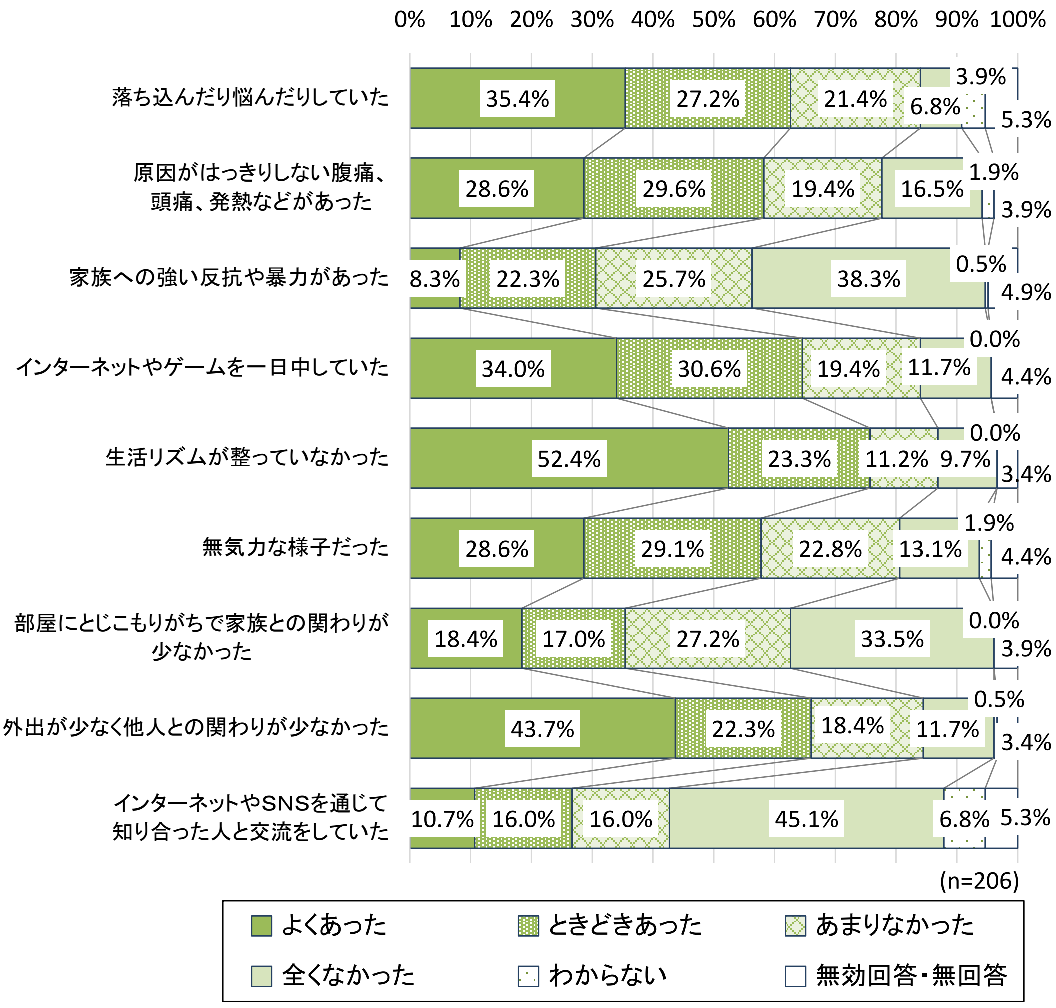
2-2-5　保護者から見た中学校 3 年生のときの子供の様子

保護者から見た、中学校 3 年生のときの子供の様子について、「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた割合を見ると、「生活リズムが整っていなかった」（76%）、「外出が少なく他人との関わりが少なかった」（66%）、「インターネットやゲームを一日中していた」（65%）、「落ち込んだり悩んだりしていた」（63%）、「原因がはっきりしない腹痛、頭痛、発熱などがあった」（58%）、「無気力な様子だった」（58%）が 5 割以上と高い。

一方、「インターネットや SNS を通じて知り合った人と交流をしていた」（27%）の割合はあまり高くないが、その性質上、保護者が十分に認知できていない可能性もある（図表 2-2-5）。

【一次保護者・問 5】（単一回答）
お子さんが中学校 3 年生のときに学校を休みがちだったころのことについてお聞きします。次のようなことは、お子さんにどのくらいありましたか。

図表 2-2-5　保護者から見た中学校 3 年生のときに学校を休みがちだったころの子供の様子（一次保護者）



2-2-6　保護者から見た子供の病気や障害等の状況

子供に病気や障害があること、またはその可能性を心配したことがあったかについては、65%の保護者が「あった」（「よくあった」（36%）＋「ときどきあった」（29%））と回答している（図表 2-2-6-1）。また、そのうち 6 割以上が「医療機関等を受診した」ほか、約４割が「区の教育相談室やスクールソーシャルワーカーに相談した」[15]や「学校の担任やスクールカウンセラーに相談した」[16]と回答している（図表 2-2-6-2）。

なお、日本財団の調査[17]によると、12 歳～15 歳の不登校の子供がいる保護者のうち 27%が「（子ども本人が）医師による診断はなされていないが、学習面や運動面、行動面において何かしらの困難がある」と回答し、22%が「（子ども本人が）心身または発達上障害があると医師の診断を受けている」と回答している（図表 2-2-6-3）。

また、文部科学省が平成 24 年に全国の公立小中学校で実施した調査[18]では、通常学級に在籍する児童生徒のうち、推定値 6.5%が「知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で著しい困難を示す」とされている（図表 2-2-6-4）。

15　教育相談室：区内に４か所の教育相談室を設け、専門の相談員が、区内在住の幼児、児童、生徒の発達の過程で生じた諸問題の相談に応じている。

スクールソーシャルワーカー：児童生徒の家庭環境による問題に対処するため、子ども家庭支援センターや総合福祉事務所等関係機関との連携や、教員の支援を行う福祉の専門職で、学校教育支援センターに配置している。

16　スクールカウンセラー：区立小中学校に配置している臨床心理士などの心理の専門家で、児童や生徒、その保護者、学校全体を、その専門知識を生かして支援している。

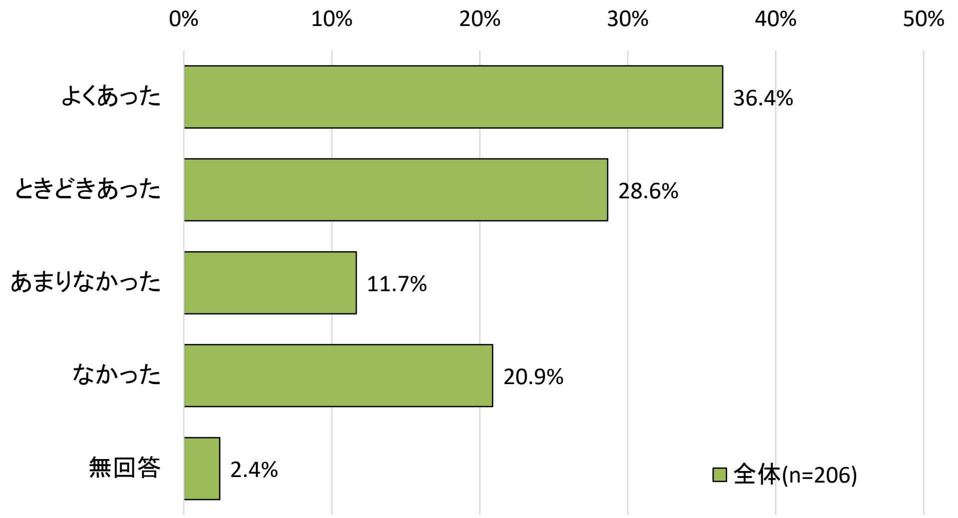
17　日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」（平成 30 年 12 月）
https://www.nippon-foundation.or.jp/who/news/information/2018/20181212-6917.html

18　文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」（平成 24 年 12 月）　https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1328729.htm

【一次保護者・問 8】（単一回答）

お子さんが中学校３年生のとき、病気や障害があること、または病気や障害がある可能性について、心配したことがありましたか。

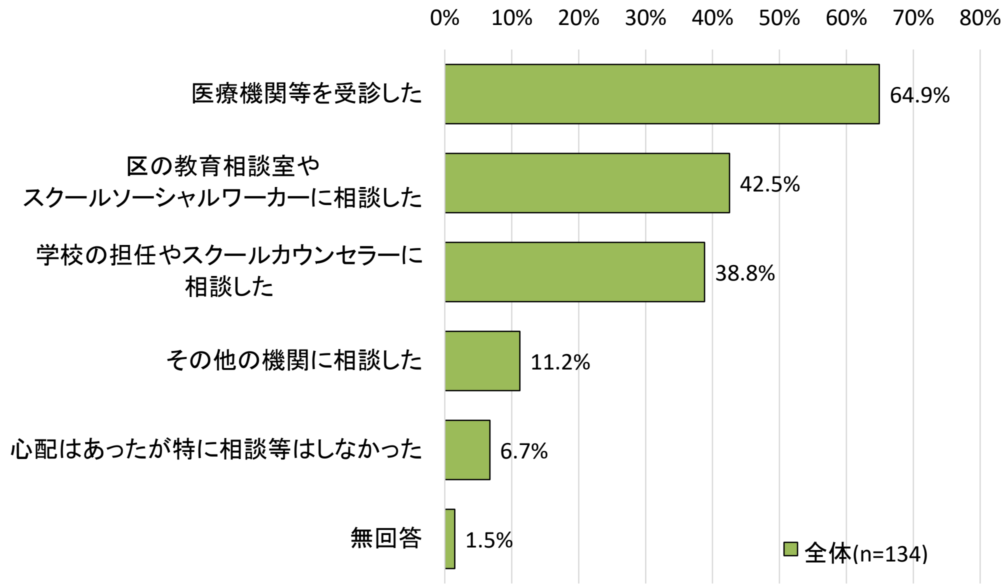
図表 2-2-6-1　子供の病気や障害を心配したことの有無（一次保護者）



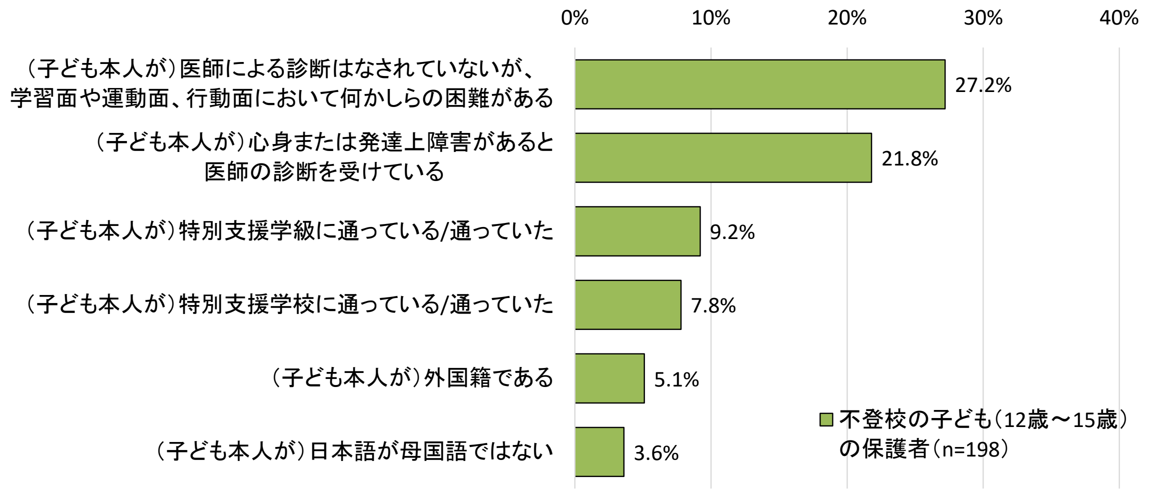
【一次保護者・問 8-1】（複数回答）

（「よくあった」または「ときどきあった」と答えた場合）そのときにどうされましたか。

図表 2-2-6-2　子供の病気や障害を心配した時の対応（一次保護者）

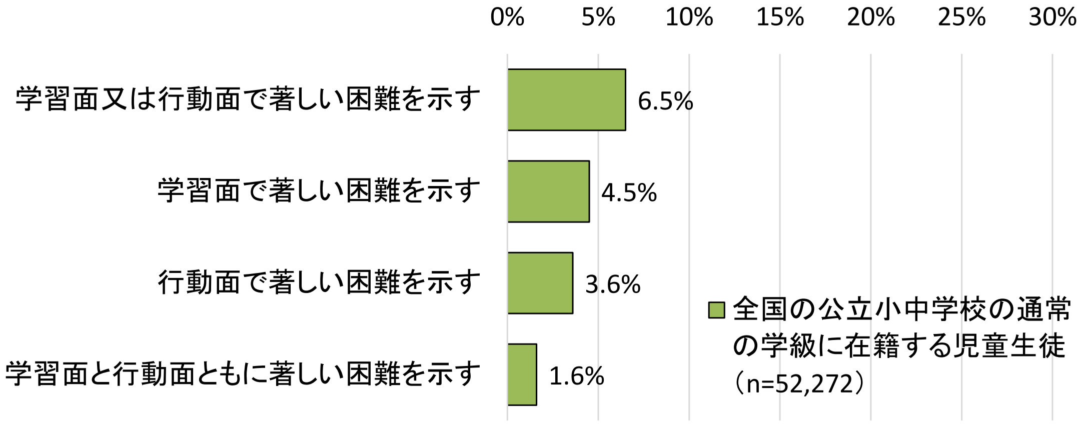


図表 2-2-6-3 参考：不登校の子供の障害等に関する状況



出典：日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査」（平成 30 年 12 月）より練馬区作成

図表 2-2-6-4 参考：児童生徒の困難の状況[19]



出典：文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」（平成 24 年 12 月）より練馬区作成

[19] 岩手県、宮城県、福島県の公立小中学校の児童生徒は調査対象外となっている。

2-3　不登校であったときの支援の利用状況と評価

2-3-1　中学校３年生のときに利用等があったもの、利用等に対する評価

学校内の支援では、「学校の先生からの電話などの連絡」（90%）、「学校の先生・保健室の先生との相談」（70%）が多く行われており、「保健室や相談室などの別室登校」（50%）、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」[20]（53%）は約５割、「学校の先生による家庭訪問」（41%）は約４割の方に利用されていた。

学校外の支援として、「適応指導教室（トライ）」（56%）は約６割、「練馬区の教育相談室」（28%）は約３割、「スクールソーシャルワーカーへの相談」（19%）は約２割の利用となっている（図表 2-3-1-1）。

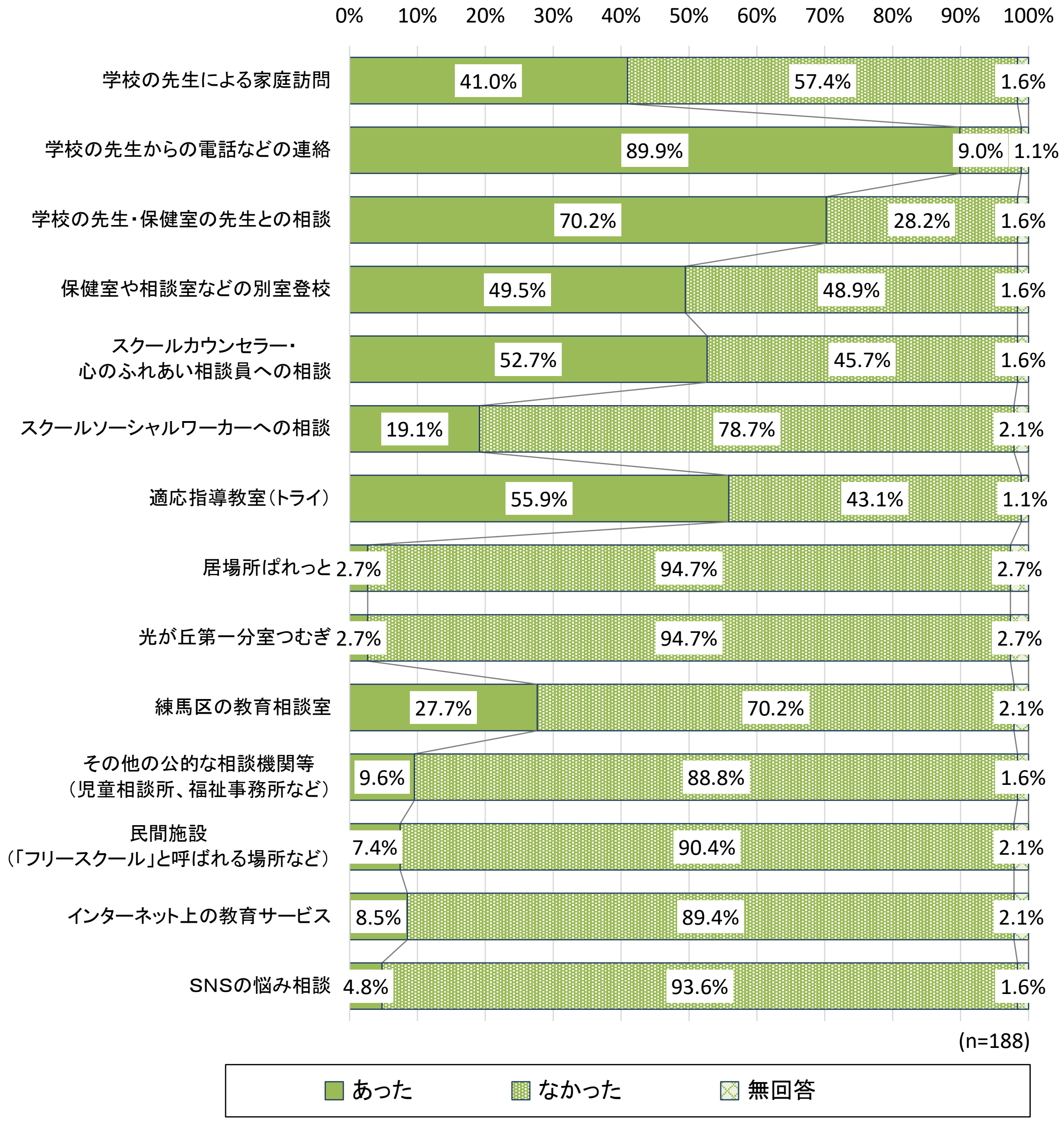
また、支援の利用状況について、「学校内・学校外両方の支援を利用」（60%）した方は６割、「学校内の支援のみを利用」（23%）した方は約２割となっている（図表 2-3-1-2）。

利用者数が一定数いたもので、実施・利用があったものの評価として、「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合を見ると、「適応指導教室（トライ）」（87%）、「練馬区の教育相談室」（87%）、「スクールソーシャルワーカーへの相談」（78%）、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」（75%）、「学校の先生・保健室の先生との相談」（70%）については７割以上の評価を得ている。「学校の先生からの電話などの連絡」（58%）、「学校の先生による家庭訪問」（48%）は５割前後の方が評価している（図表 2-3-1-3）。

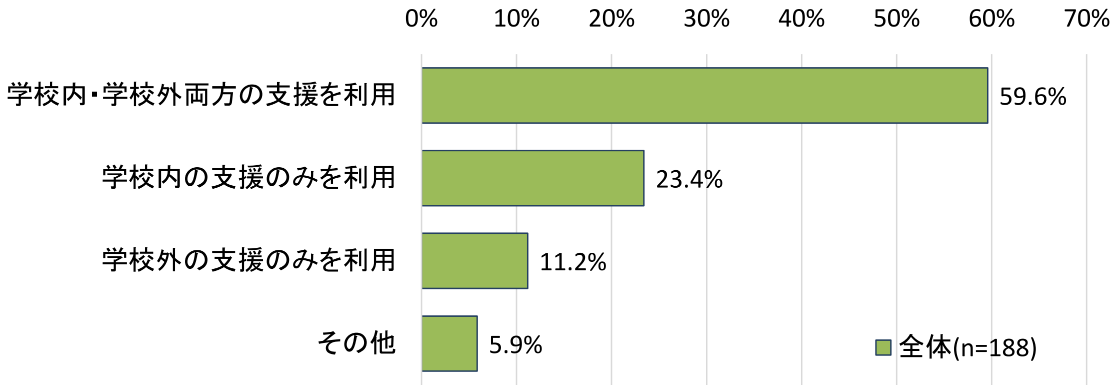
[20] 心のふれあい相談員：スクールカウンセラーの職務を補完する有償ボランティアで、区立小中学校に配置している。

【一次本人・問 15】（単一回答）
あなたが中学校３年生のとき、次のようなことはありましたか。

図表 2-3-1-1　中学校 3 年生のときに実施・利用があったもの（一次本人）



図表 2-3-1-2　学校内の支援・学校外の支援の利用状況（一次本人）



※学校内の支援：

「学校の先生による家庭訪問」、「保健室や相談室などの別室登校」、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」のうち、いずれか１つでも「あった」と回答した場合。

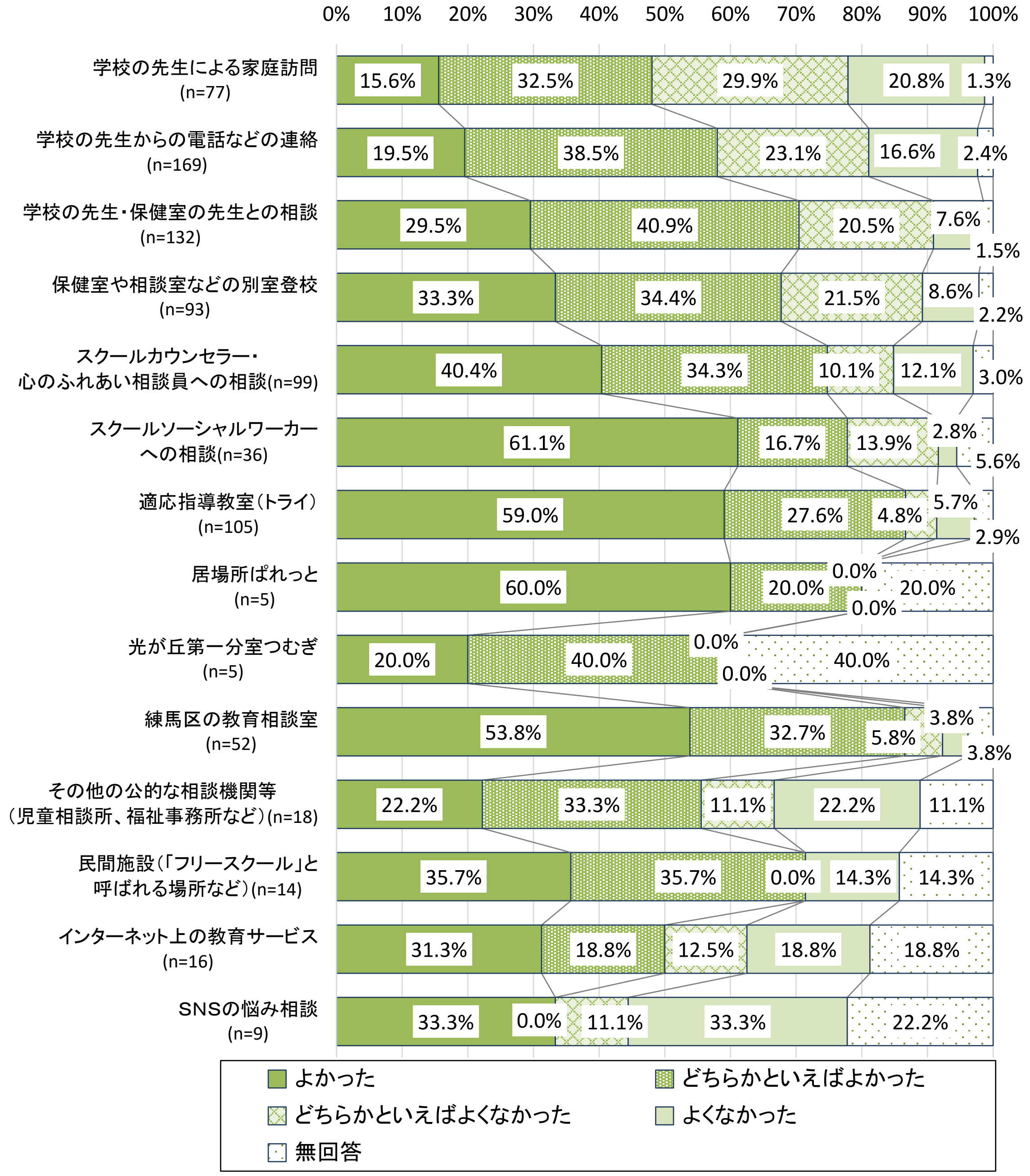
（「学校の先生からの電話などの連絡」および「学校の先生・保健室の先生との相談」は練馬区内の公立中学校でおおむね実施されていると考えられたため、「学校内の支援」の定義から除いている。）

※学校外の支援：

「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「適応指導教室（トライ）」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「練馬区の教育相談室」、「その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）」、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」のうち、いずれか１つでも「あった」と回答した場合。

【一次本人・問 15】（単一回答）
あなたが中学校３年生のとき、次のようなことはありましたか。また、「あった」場合、そのことについてよかったと思いますか。

図表 2-3-1-3　中学校 3 年生のときに実施・利用があったものについての評価（一次本人）[21]



※集計対象は、それぞれ、実施・利用が「あった」場合のみ。

[21] 「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」、「その他の公的な相談機関等（児童相談所、福祉事務所など）」、「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」、「インターネット上の教育サービス」、「SNS の悩み相談」については、実施・利用が「あった」と回答した方が少なく、データの件数が少ない点に留意が必要である。

2-3-2　保健室や相談室などの別室登校の利用状況

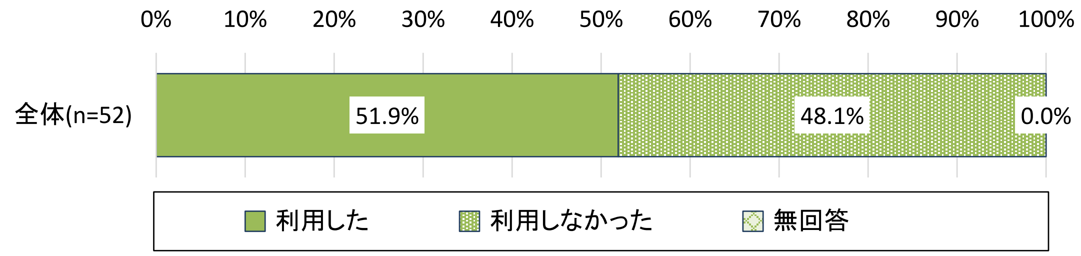
「保健室や相談室などの別室登校」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 5 割となっている（図表 2-3-2-1）。利用頻度は「週に 1 日」の割合が約 5 割と最も高いが、他方で「週に 5 日」も約 2 割となっている（図表 2-3-2-2）。

利用のきっかけは「教員等のすすめ」であることが多く（図表 2-3-2-3）、「相談・コミュニケーションができた」、「学校に行けた」など肯定的な評価が得られている（図表 2-3-2-4、図表 2-3-2-5）。

他方で、「ほかの生徒や先生に会ってしまう」ことや、生徒の声が聞こえること、人の出入りがあることで「落ち着かない」といった声もあった（図表 2-3-2-6、図表 2-3-2-7）。

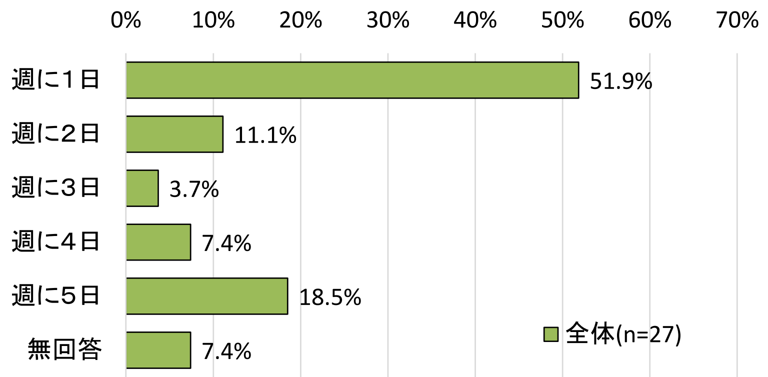
【二次・問 4】（単一回答）
中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-2-1　保健室や相談室などの別室登校の利用の有無（二次）



【二次・問 4】（数値で回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。
①週に何日くらい利用していたか

図表 2-3-2-2　保健室や相談室などの別室登校の利用頻度（二次）



※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。

【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。
②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-2-3 保健室や相談室などの別室登校を利用したきっかけや目的（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教員等のすすめ	13
登校・生活リズムに慣れるため	5
親のすすめ	4
相談・状況報告のため	3
多くの人に会わないようにするため	2
勉強・受験のため	2
その他	3
無回答（回答欄空欄）	3

※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。
※27 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。
③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-2-4 保健室や相談室などの別室登校を利用してよかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
相談・コミュニケーションができた	10
学校に行けた	7
勉強ができた	5
安心できた	4
進路準備ができた	3
その他	3
特になし	2
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。
※27 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-3-2-5 保健室や相談室などを利用してよかったと思うこと（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
相談・コミュニケーションができた	保健室で先生とたくさん話せたり相談できたこと。
	２人きりだと話せるのもあって、相談室の先生と仲良くなったのでその点は良かったです。
学校に行けた	「学校に行く」という行動を起こすことができた。
勉強ができた	毎日学校に行けて苦手な人とも合わなくて済み、先生もいっぱい来て下さり、勉強も教えてくれました。
安心できた	少人数だし、登校時間もずれているので、よかった。
進路準備ができた	担任の先生と話ができ、高校に向けての準備ができた。

【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。
④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-2-6 保健室や相談室などを利用したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
ほかの生徒や先生に会ってしまう	4
落ち着かない	3
その他	7
特になし	6
無回答（回答欄空欄）	7

※集計対象は、保健室や相談室などの別室登校を「利用した」と回答した場合のみ。
※27 件の回答を分類したもの。

図表 2-3-2-7 保健室や相談室などを利用したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
ほかの生徒や先生に会ってしまう	校内で生徒と会う時間に登校させられること。
落ち着かない	利用したのが保健室で、 色々な人が出入りするので落ち着かなかった。

2-3-3　スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談状況

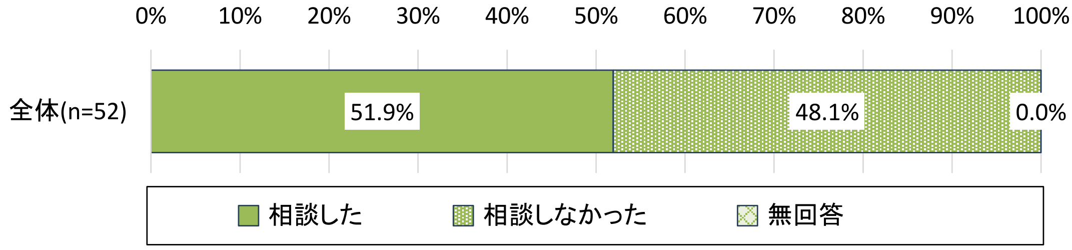
「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 5 割となっている（図表 2-3-3-1）。

利用のきっかけは「教員等のすすめ」や「親のすすめ」であることが多く（図表 2-3-3-2）、「相談・コミュニケーションができた」、「安心できた」など肯定的な評価が得られている（図表 2-3-3-3、図表 2-3-3-4）。

他方で、「場所・雰囲気が利用しづらい」といった声も若干あった（図表 2-3-3-5、図表 2-3-3-6）。

【二次・問 4】（単一回答）
中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-3-1　スクールカウンセラー･心のふれあい相談員への相談の有無（二次）



【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。[22]
②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-3-2　スクールカウンセラー･心のふれあい相談員に相談したきっかけや目的（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教員等のすすめ	8
親のすすめ	5
相談・利用する機会があったから	5
コミュニケーション・話し相手として	3
その他	7
無回答（回答欄空欄）	5

※集計対象は、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に「相談した」と回答した場合のみ。
※27 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

[22] 「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」については、週当たりの利用日数の回答が難しいと考えられたため、①利用頻度を尋ねていない。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-3-3 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に相談してよかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
相談・コミュニケーションができた	10
安心できた	5
ためになった、参考になった	4
自分のことを考えるきっかけになった	2
その他	2
無回答（回答欄空欄）	7

※集計対象は、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に「相談した」と回答した場合のみ。

※27 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-3-3-4 スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に相談してよかったと思うこと（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
相談・コミュニケーションができた	学校の嫌なことを打ち明けられた。
	1 人で考える時間が減った。悩みをすぐ相談できた。
安心できた	孤独だと感じていたが、相談員の先生が寄り添ってくれて心のよりどころになった。
ためになった、参考になった	自分と全然違う考えですごく救われたし、今も役に立つ知識が多い。
自分のことを考えるきっかけになった	色々話をする中で自分のことを整理できた。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-3-5 スクールカウンセラー･心のふれあい相談員に相談したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
場所・雰囲気が利用しづらい	3
その他	3
特になし	7
無回答（回答欄空欄）	14

※集計対象は、スクールカウンセラー・心のふれあい相談員に「相談した」と回答した場合のみ。

※27 件の回答を分類したもの。

図表 2-3-3-6 スクールカウンセラー･心のふれあい相談員に相談したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
場所・雰囲気が利用しづらい	学校に登校しなければならなかったこと。

2-3-4　適応指導教室（トライ）の利用状況

「適応指導教室（トライ）」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 6 割となっている（図表 2-3-4-1）。利用頻度は「週に 1 日」の割合が約 3 割、「週に 3 日」、「週に 5 日」の割合がそれぞれ約 2 割となっている（図表 2-3-4-2）。

利用のきっかけは「教員等のすすめ」や「親のすすめ」であることが多く（図表 2-3-4-3）、「進路準備ができた」や「勉強ができた」、あるいは、「友達ができた」や「相談・コミュニケーションができた」といった肯定的な評価が得られている（図表 2-3-4-4、図表 2-3-4-5）。

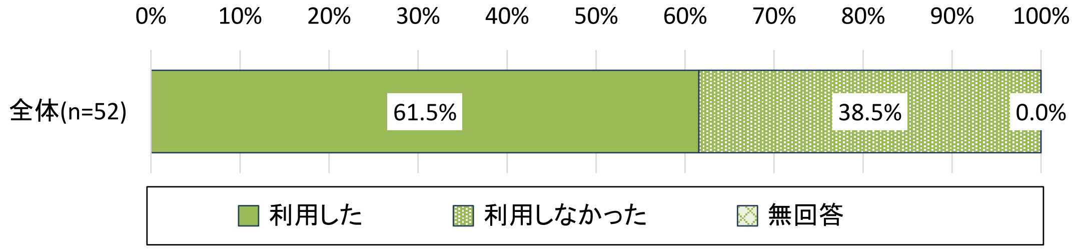
他方で、「人間関係・雰囲気」などの点でよくなかったといった声もあった（図表 2-3-4-6、図表 2-3-4-7）。

なお、「適応指導教室（トライ）」を利用しなかった方にその理由を尋ねたところ、存在を「知らなかった」方もいたが、知ってはいたが、特に同年代の人と会いたくないなど「人と関わりたくなかった、行きたくなかった」という回答が多かった（図表 2-3-4-8）。

また、「適応指導教室（トライ）」について知っていたが利用しなかったと回答した保護者にもその理由を尋ねたところ、親が検討はしたが「本人が行きたがらなかった」や「子供の状況から利用は難しいだろうと保護者が判断した」という回答が多かった（図表 2-3-4-9）。

【二次・問 4】（単一回答）
中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-4-1　適応指導教室(トライ)の利用の有無(二次)

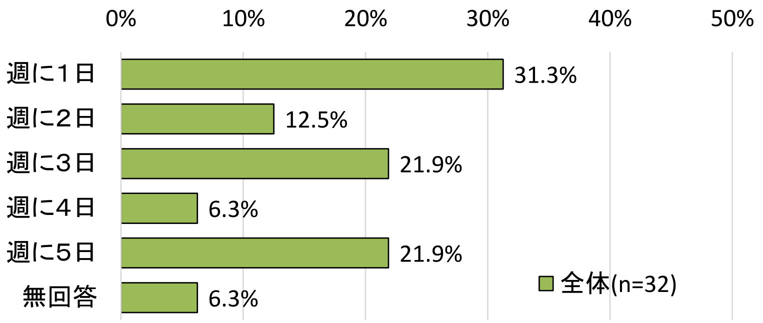


【二次・問 4】（数値で回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

① 週に何日くらい利用していたか

図表 2-3-4-2 適応指導教室（トライ）の利用頻度（二次）



※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-4-3 適応指導教室（トライ）を利用したきっかけや目的（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教員等のすすめ	8
親のすすめ	8
勉強・受験のため	7
友達が行っていた、友達ができた	4
小学校のとき行っていたから	2
その他	3
無回答（回答欄空欄）	3

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

※32 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-4-4 適応指導教室(トライ)を利用してよかったと思うこと
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
進路準備ができた	11
勉強ができた	10
友達ができた	9
相談・コミュニケーションができた	8
外出のきっかけとなった	5
その他	8
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

※32 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-3-4-5 適応指導教室(トライ)を利用してよかったと思うこと
（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
進路準備ができた	今後の生活や高校受験についてアドバイスをいただけたので、すごく助かった。
	進路相談は大いに役立ったと思う。
勉強ができた	ついていけないところや高校受験を手伝ってもらった。
	学習支援を受け高校に進学できた。
友達ができた	同い年や後輩の友達ができました。同じ悩みや似たような環境の子もおり、愚痴や相談など、共感し合いながら話せたのはとても助かり、うれしかった。
相談・コミュニケーションができた	人と話す機会ができたこと。
外出のきっかけとなった	勉強しに行く、先生に会いに行くなどの目的があったので外に出やすかった。学校に行くのと同じ感覚で行けたのでリハビリにもなった。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-4-6 適応指導教室（トライ）を利用したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
人間関係・雰囲気	5
授業に関すること	2
その他	3
特になし	10
無回答（回答欄空欄）	12

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用した」と回答した場合のみ。

※32 件の回答を分類したもの。

図表 2-3-4-7 適応指導教室（トライ）を利用したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
人間関係・雰囲気	同じ空間にいる人を、傷付けないように気をつかうこと。そんなに知っている人ばかりではなかったので。
授業に関すること	個人的に通常教科の授業に出るハードルが高かったと感じた。

【二次・問 4-1】（自由記述回答）

あなたが、適応指導教室（トライ）を利用しなかった理由を教えてください。

図表 2-3-4-8　適応指導教室(トライ)を利用しなかった理由(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
人と関わりたくなかった、行きたくなかった	7
知らなかった	5
ほかの場所に行っていたから	2
その他	5
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「利用しなかった」と回答した場合のみ。

※20 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【一次保護者・問 7】（自由記述回答）

「適応指導教室（トライ）」について、「知っていたが利用しなかった」を選んだ方は、利用しなかった理由を具体的に記入してください。

図表 2-3-4-9　保護者が適応指導教室(トライ)を知っていたが、
お子さんが利用しなかった理由(一次保護者、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
本人が行きたがらなかった	25
子供の状況から利用は難しいだろうと保護者が判断した	8
説明・相談時の対応がよくなかった	7
外出が難しかった	5
過去に利用したが継続しなかった	5
家から遠かった	4
その他	5
無回答（回答欄空欄）	5

※集計対象は、適応指導教室（トライ）を「知っていたが利用しなかった」と回答した場合のみ。

※59 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

2-3-5　民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）の利用状況

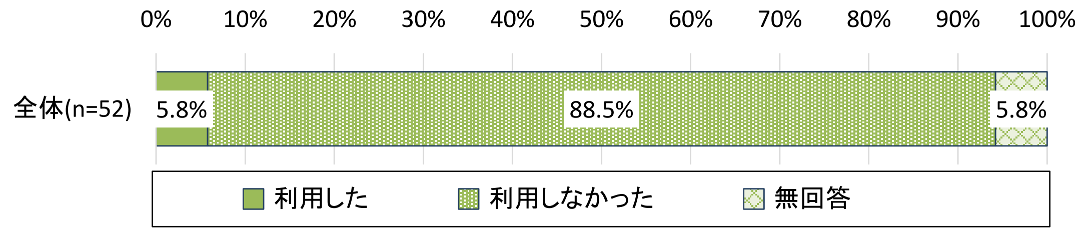
「民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）」は、二次調査の回答でも、利用の割合は 1 割未満（二次調査回答者での該当ケース数 3 件）となっている（図表 2-3-5-1）。利用頻度は「週に 1 日」と「週に 2 日」となっている（図表 2-3-5-2）。

利用のきっかけは「親のすすめ」と「勉強・受験のため」であり、（図表 2-3-5-3）、「友達ができた」、「自分の学力の程度が把握できた」という肯定的な評価があった（図表 2-3-5-4）。

【二次・問 4】（単一回答）

中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-5-1　民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）の利用の有無（二次）

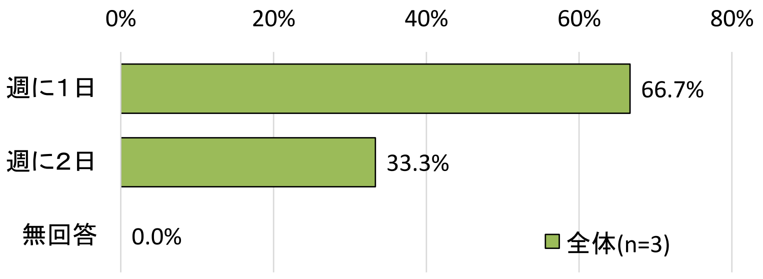


【二次・問 4】（数値で回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

①週に何日くらい利用していたか

図表 2-3-5-2　民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）の利用頻度（二次）



※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。

【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。
②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-5-3 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を利用したきっかけや目的（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
親のすすめ	1
勉強・受験のため	1
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。
※３件の回答を分類したもの。

【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。
③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-5-4 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を利用してよかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
友達ができた	1
自分の学力の程度が把握できた	1
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。
※３件の回答を分類したもの。

【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。
④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-5-5 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を利用したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
特になし	1
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）を「利用した」と回答した場合のみ。
※３件の回答を分類したもの。

2-3-6　スクールソーシャルワーカーへの相談状況

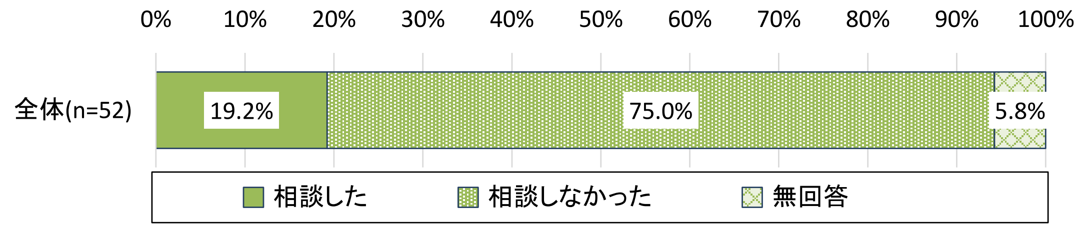
「スクールソーシャルワーカーへの相談」は、二次調査の回答でも、利用の割合は約 2 割となっている（図表 2-3-6-1）。

利用のきっかけとして、「教員等のすすめ」のほか、「小学校の時から相談していた」というケースが見られ（図表 2-3-6-2）、「安心できた、支えになった」、「進路準備ができた」といった肯定的な評価が得られている（図表 2-3-6-3、図表 2-3-6-4）。

よくなかった点としては、「かみ合わなかった」との意見が 1 件あった（図表 2-3-6-5）。

【二次・問 4】（単一回答）
中学校 3 年生の時、あなたは次のような相談や場所を利用しましたか。

図表 2-3-6-1　スクールソーシャルワーカーへの相談の有無（二次）



【二次・問 4】（自由記述回答）
相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。[23]
②相談・利用したきっかけや目的（どのようにして知りましたか、なぜ利用しましたか）

図表 2-3-6-2　スクールソーシャルワーカーに相談したきっかけや目的
（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
教員等のすすめ	2
小学校の時から相談していた	2
親のすすめ	1
その他	4
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、スクールソーシャルワーカーに「相談した」と回答した場合のみ。
※10 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

[23] 「スクールソーシャルワーカーへの相談」については、週当たりの利用日数の回答が難しいと考えられたため、①利用頻度を尋ねていない。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

③相談・利用してよかったと思うこと

図表 2-3-6-3　スクールソーシャルワーカーに相談してよかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
安心できた、支えになった	4
進路準備ができた	3
特になし	1
無回答（回答欄空欄）	2

※集計対象は、スクールソーシャルワーカーに「相談した」と回答した場合のみ。

※10 件の回答を分類したもの。

図表 2-3-6-4　スクールソーシャルワーカーに相談してよかったと思うこと（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
安心できた、支えになった	長きにわたり相談をしてくれて自分にとって大きい存在になった。学校のことだけでなく家庭のことも相談できたし、心の支えになり人生で大きな影響を与えてくれました。
進路準備ができた	支援を受けて高校に進学できた。

【二次・問 4】（自由記述回答）

相談・利用したものについては、それぞれ①～④について教えてください。

④相談・利用してよくなかったと思うこと

図表 2-3-6-5 スクールソーシャルワーカーに相談したがよくなかったと思うこと（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
かみ合わなかった	1
特になし	5
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、スクールソーシャルワーカーに「相談した」と回答した場合のみ。

※10 件の回答を分類したもの。

2-3-7　保護者からの評価

子供への学校の対応として、保護者の回答でも、「学校の先生からの電話などの連絡」（85%）は約９割、「学校の先生・保健室の先生との相談」（77%）は約８割で実施されている。「学校の先生による家庭訪問」（38%）は約４割で実施されていたが、一方で約５割の保護者は「行われなくてよかった」と回答している（図表 2-3-7-1）。

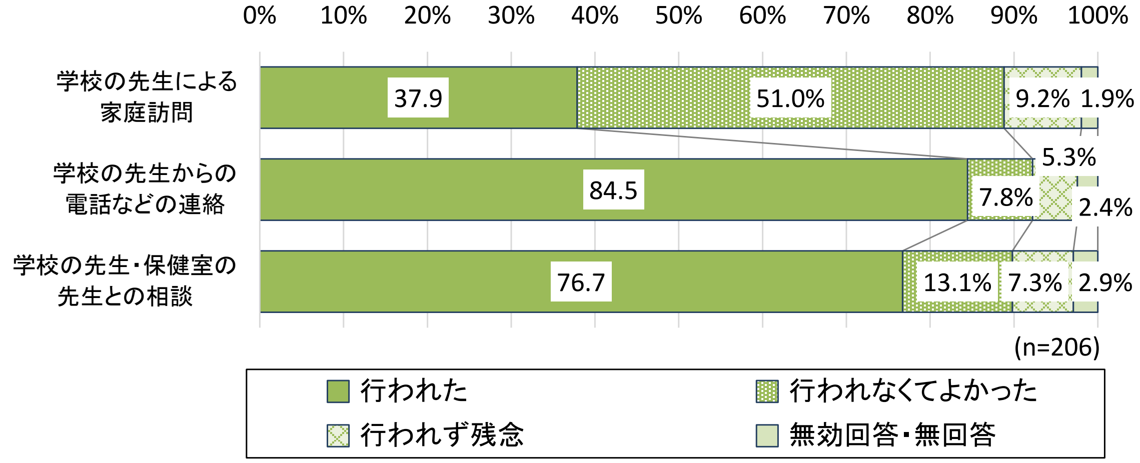
対応への評価として、「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合を見ると「学校の先生・保健室の先生との相談」（85%）、「学校の先生による家庭訪問」（82%）、「学校の先生からの電話などの連絡」（79%）と、いずれも約８割の評価を得ている（図表 2-3-7-2）。

それ以外の学校の対応や支援機関の支援について、「利用した」と「知っていたが利用しなかった」を合わせた割合を見ると、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員への相談」（94%）、「保健室や相談室などの別室登校」（89%）、「適応指導教室（トライ）」（84%）については、８割以上が利用の有無は別として存在を認知していた。「スクールソーシャルワーカーへの相談」、「居場所ぱれっと」、「光が丘第一分室つむぎ」は、それらに比べると「知らなくて利用しなかった」割合が高くなるが、これらは利用者が限られる支援であることによると考えられる（図表 2-3-7-3）。

また、利用者が一定数いた支援に対する評価として、「よかった」と「どちらかといえばよかった」を合わせた割合を見ると「練馬区の教育相談室」（87%）、「スクールソーシャルワーカーへの相談」（84%）、「適応指導教室（トライ）」（83%）、「保健室や相談室などの別室登校」（83%）で８割を超えている（図表 2-3-7-4）。

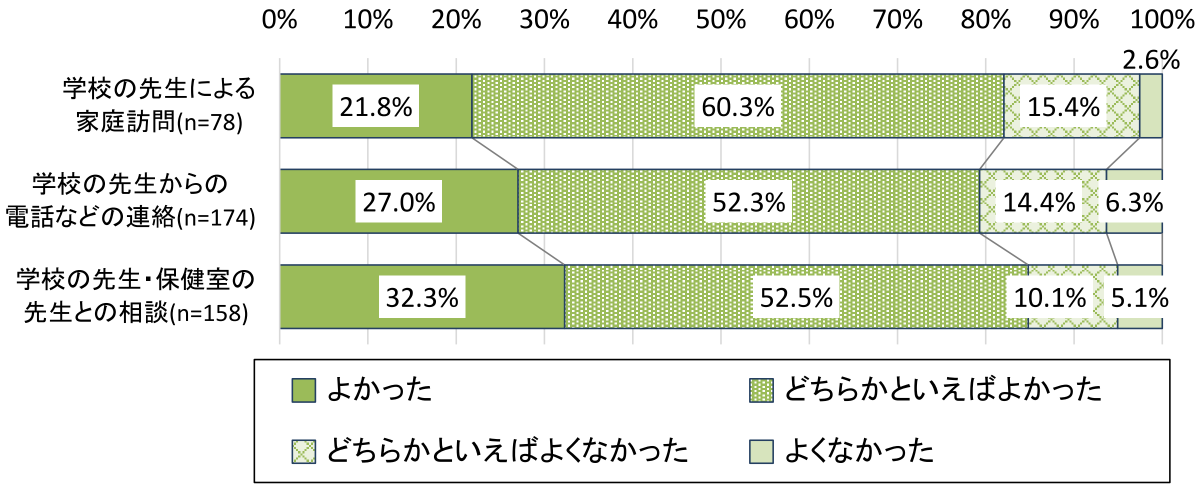
【一次保護者・問 6】（単一回答）
お子さんが中学校３年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えください。

図表 2-3-7-1　学校の対応に関する保護者からの回答（一次保護者）



【一次保護者・問 6】（単一回答）
お子さんが中学校３年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えください。

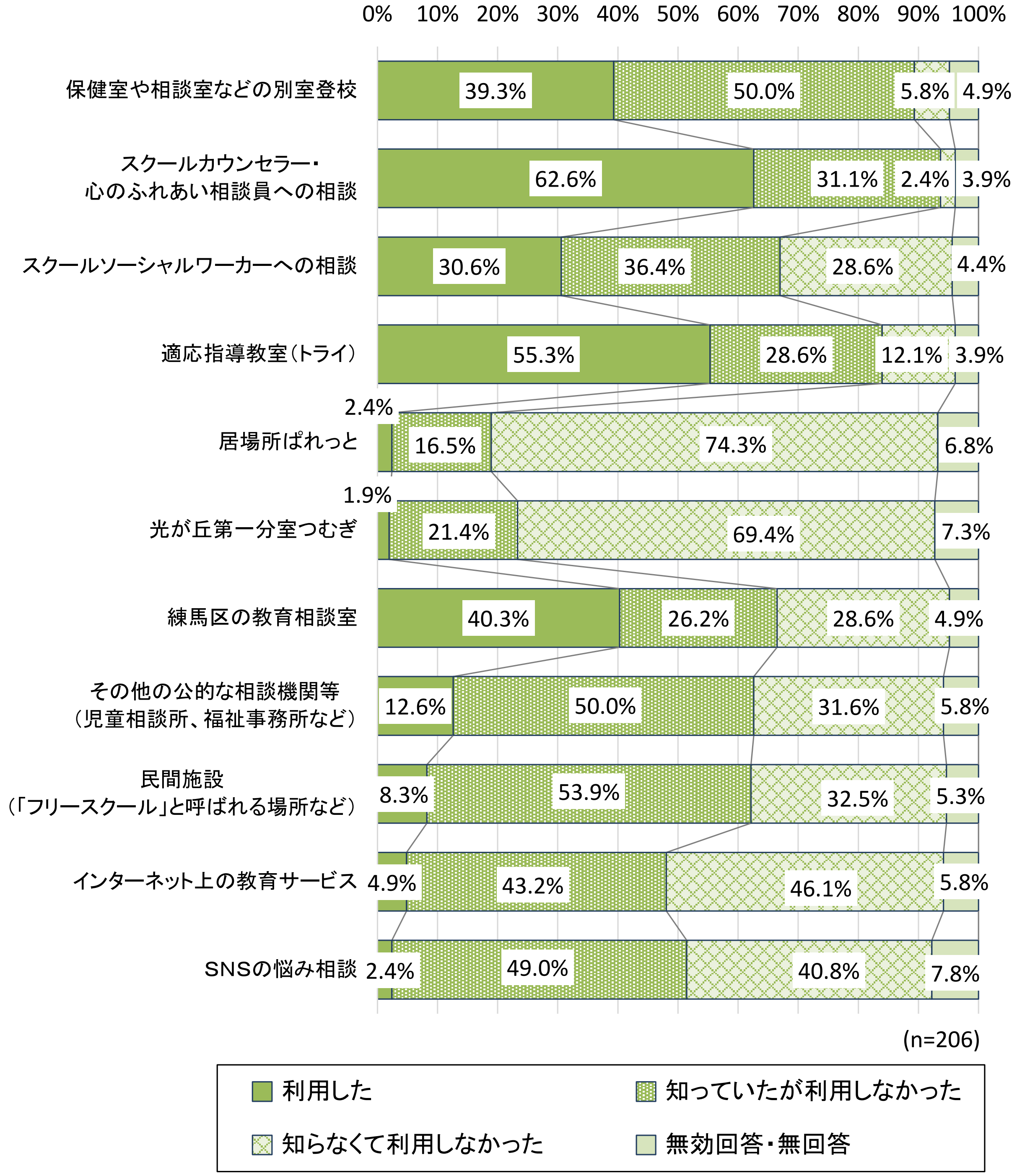
図表 2-3-7-2　学校の対応に関する保護者からの回答・評価（一次保護者）



※集計対象は、それぞれ、行われたことがある場合のみ。

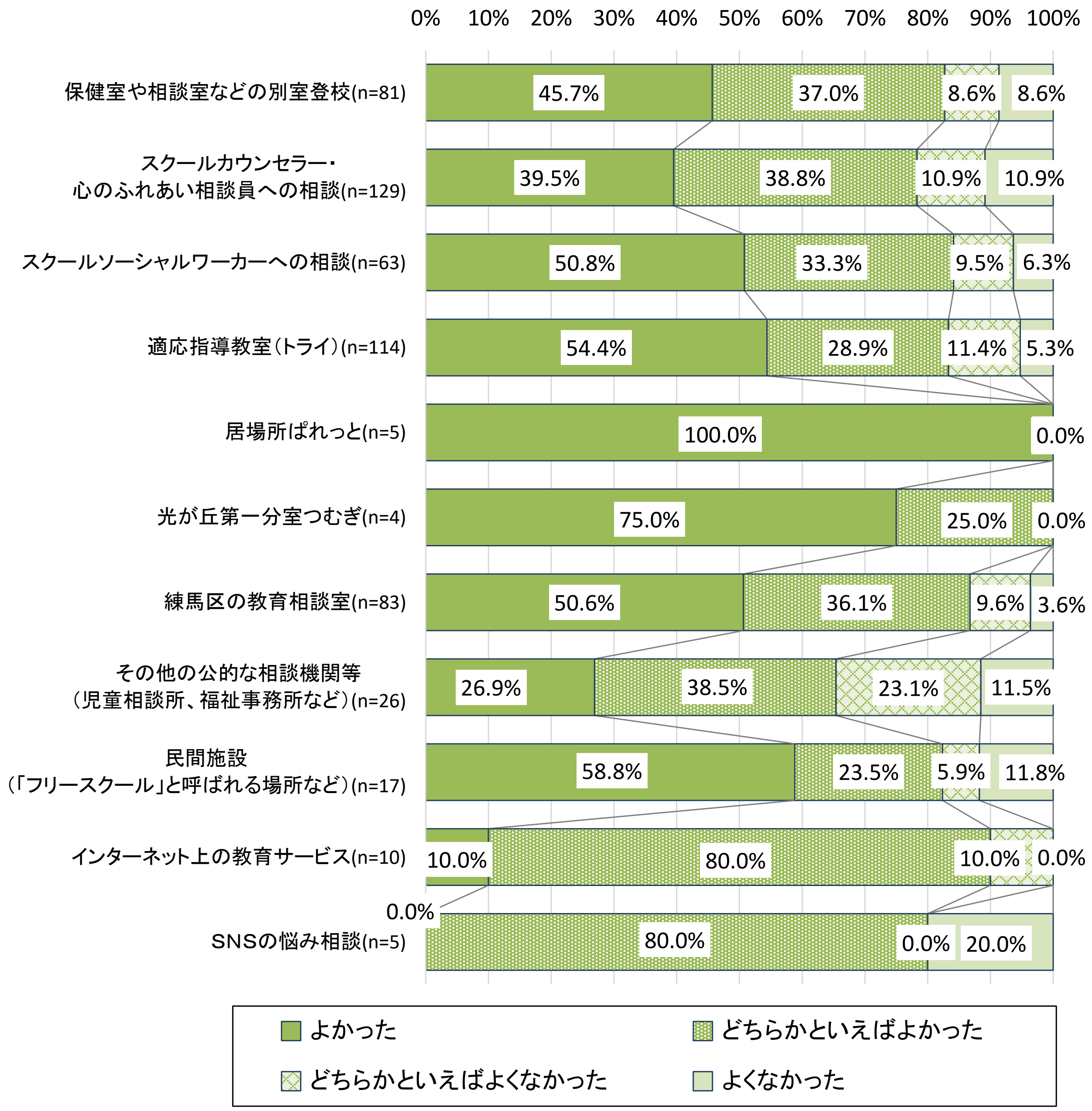
【一次保護者・問 6】（単一回答）
お子さんが中学校３年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えください。

図表 2-3-7-3 支援機関の利用状況等に関する保護者からの回答（一次保護者）



【一次保護者・問 6】（単一回答）
お子さんが中学校３年生のとき、次のような対応が行われたり、支援機関などを利用したりしましたか。そのときの対応や利用について、状況や評価をお教えください。

図表 2-3-7-4 支援機関の利用状況等に関する保護者からの回答・評価（一次保護者）



※集計対象は、それぞれ、利用したことがある場合のみ。

2-4　中学校卒業後の状況

2-4-1　中学校卒業後の進路

中学校卒業後の進路としては、「全日制の高等学校」が約 2 割（本人回答 16%、保護者回答 18%)、「定時制の高等学校」が約 4 割（本人回答 39%、保護者回答 38%)、「通信制の高等学校」が本人回答・保護者回答ともに 36%となっており、「定時制の高等学校」と「通信制の高等学校」が主な進学先となっている（図表 2-4-1-1、図表 2-4-1-2)。なお「定時制の高等学校」については、小中学校時代に不登校経験を持つ生徒等を主に受入れている、都立の定時制・単位制高等学校である「チャレンジスクール[24]」が主となっていると推察される[25]。

調査回答時点でも、短大・大学、専門学校等を含めて、在学中である方の割合は 85%と高く（図表 2-4-1-3、図表 2-4-1-4)、調査回答時点でパートやアルバイト、正社員で働いている割合は 27%となっている（図表 2-4-1-5、図表 2-4-1-6)。

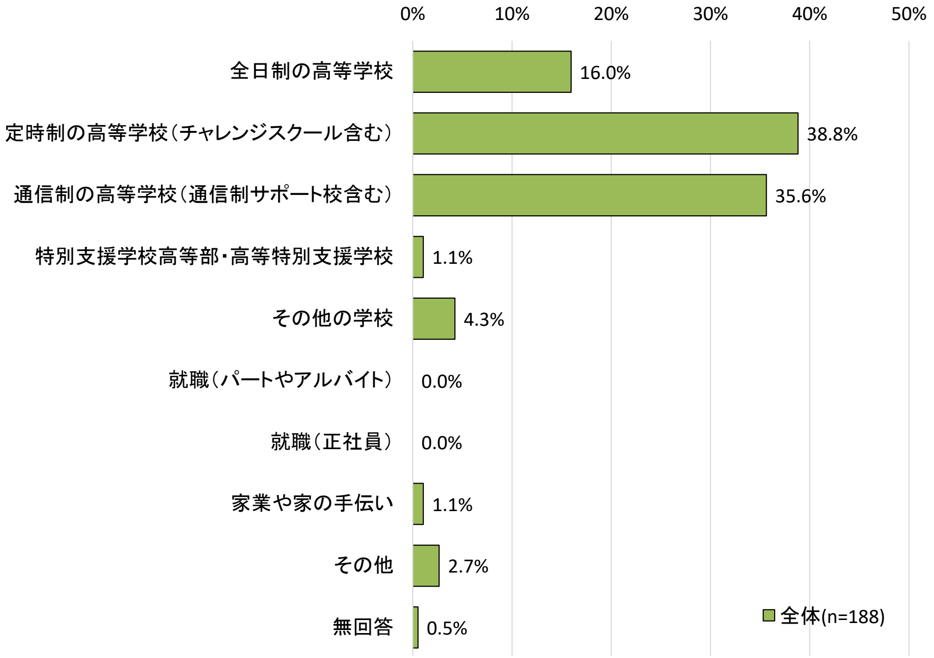
なお、中学校卒業後に経験したこととして、「転校」が６%、「仕事を辞めたこと」が４%、「留年」、「中退」がそれぞれ３%となっている（図表 2-4-1-7)。

[24] チャレンジスクール：小中学校時代に不登校経験がある生徒や、長期欠席等が原因で高校を中途退学した者等を主に受入れる総合学科・三部制(午前部・午後部・夜間部)の都立高校。現在、５校が設置されている。

[25] 参考として、令和３年度に適応指導教室トライに登録していた中学校３年生のうち、約４割が定時制高校に進学しており、そのうち、約８割がチャレンジスクールに進学している。

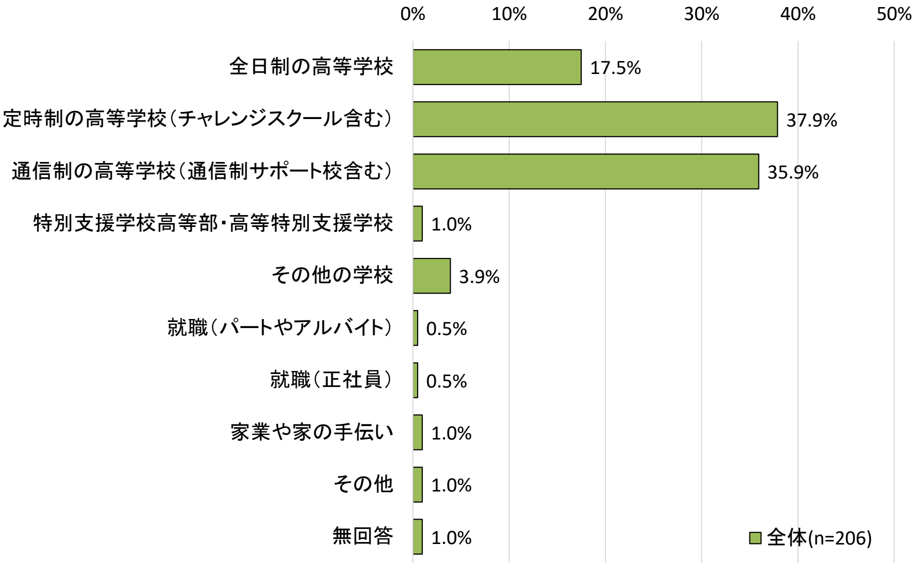
【一次本人・問 4】（単一回答）
あなたは、中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。

図表 2-4-1-1　中学校を卒業してすぐの時点の進路（一次本人）[26]



【一次保護者・問 10】（単一回答）
お子さんは中学校を卒業してすぐの時点で、どのような進路に進みましたか。

図表 2-4-1-2　中学校を卒業してすぐの時点の進路（一次保護者）

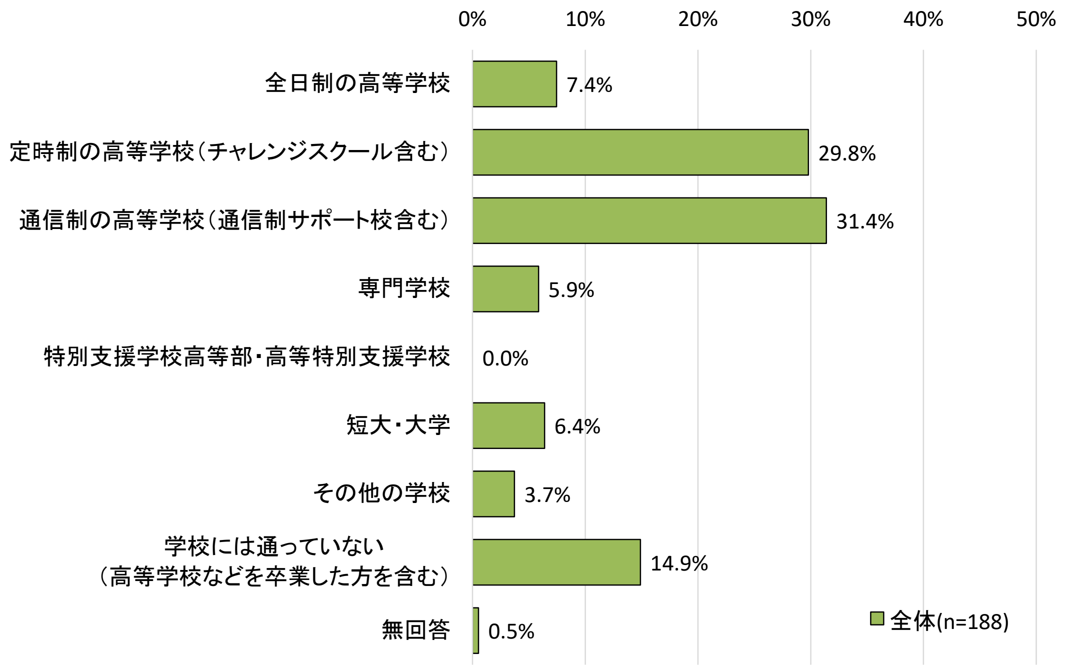


26 通信制サポート校：通信制高校に入学した者に対して、学習面等でサポートを行う教育機関。学校教育法で定められた「学校」ではなく、サポート校が提携している通信制高校の卒業になる。

【一次本人・問 5】（単一回答）

あなたは現在、次のいずれかの学校に通っていますか。

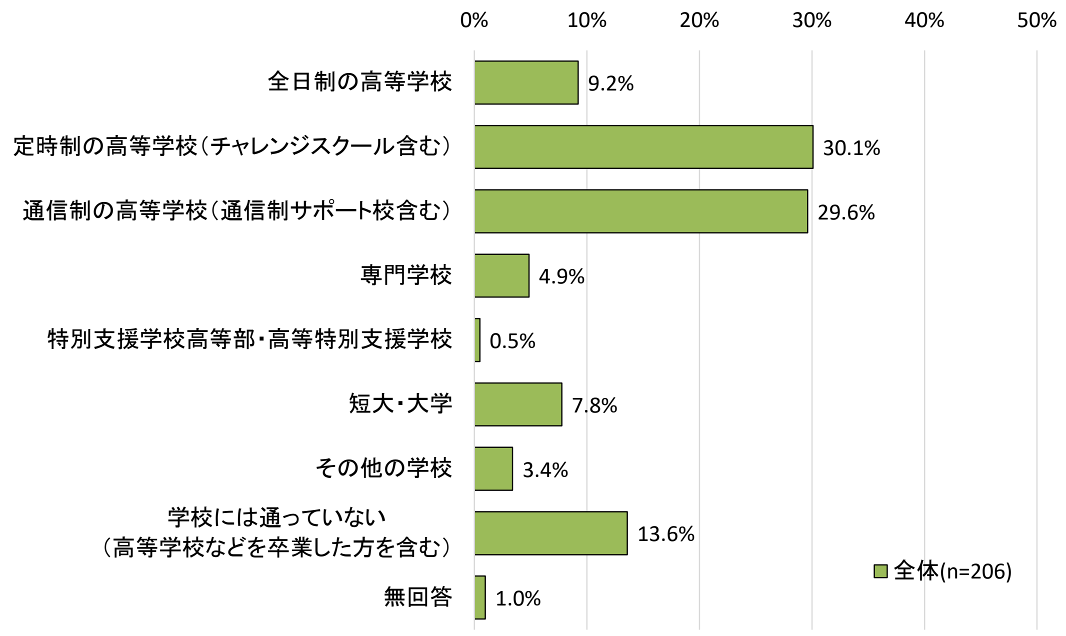
図表 2-4-1-3　調査回答時点の通学の状況（一次本人）



【一次保護者・問 11】（単一回答）

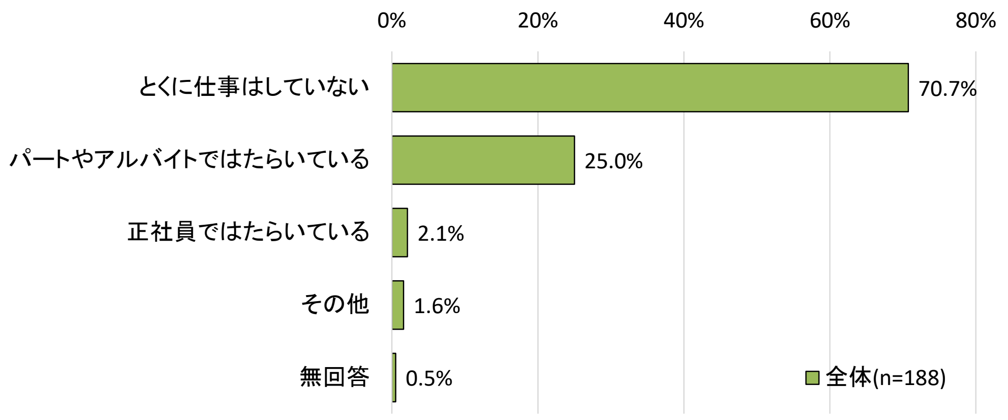
お子さんは現在、次のいずれかの学校に通っていますか。

図表 2-4-1-4　調査回答時点の通学の状況（一次保護者）



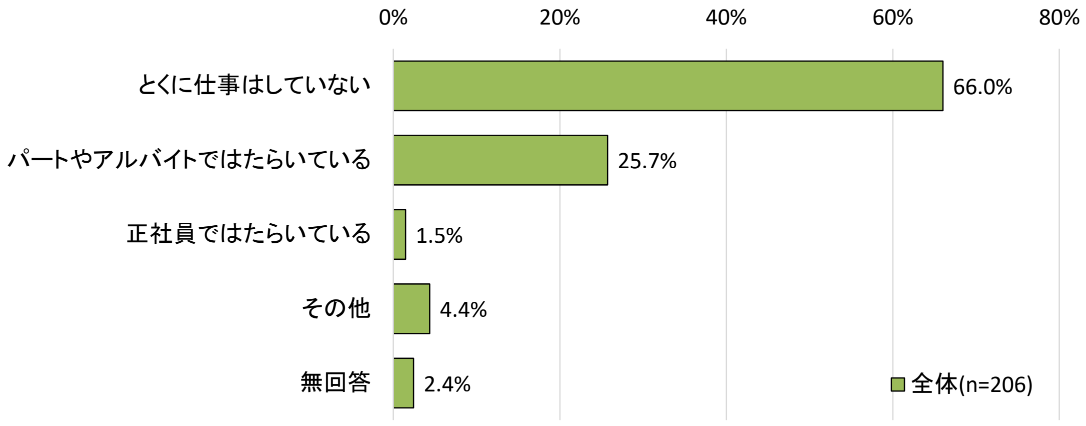
【一次本人・問 6】（単一回答）
あなたは現在、何か仕事をしていますか。

図表 2-4-1-5 調査回答時点の仕事の状況（一次本人）



【一次保護者・問 12】（単一回答）
お子さんは現在、何か仕事をしていますか。

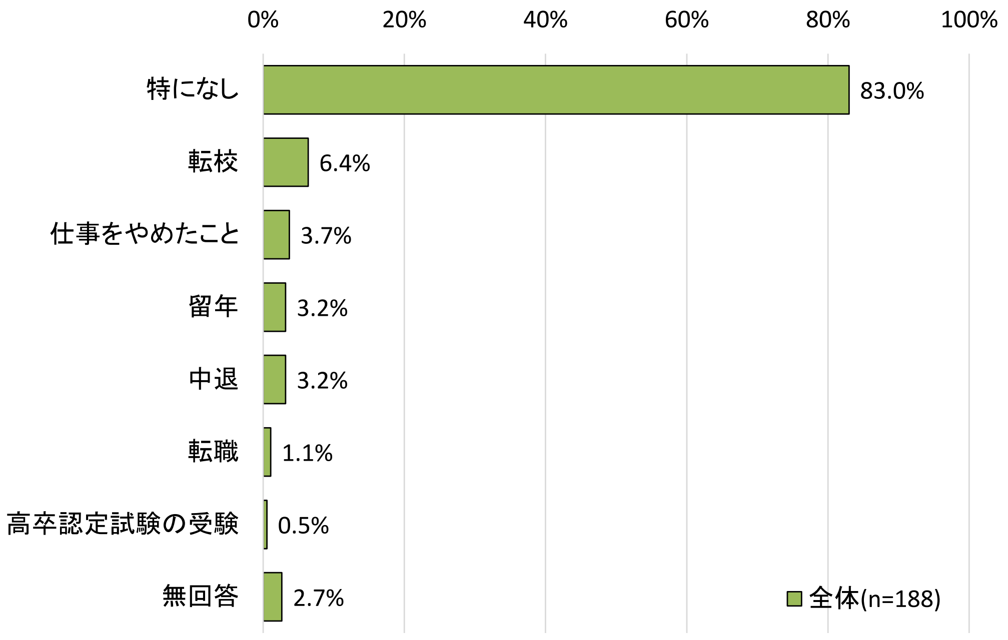
図表 2-4-1-6 調査回答時点の仕事の状況（一次保護者）



【一次本人・問 7】（複数回答）

あなたは、中学校卒業後に、以下のようなことを経験したことがありますか。

図表 2-4-1-7 中学校卒業後に経験したこと（一次本人）



2-4-2　中学校を卒業してからの困りごと、必要とした手助け等

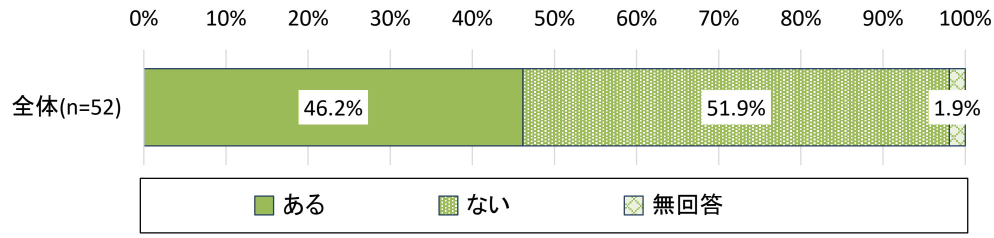
中学校を卒業してから、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのにと思ったりしたことがあるかを二次調査で尋ねたところ、半数の約 5 割が「ある」と回答している（図表 2-4-2-1）。

内容としては「心理的な不安等」や「勉強・進路のこと」（特に高校卒業後の進路）などであり（図表 2-4-2-2、図表 2-4-2-3）、そのことを実際に誰かに（どこかに）「相談した」割合は 65%となっている（図表 2-4-2-4）。相談先は、「学校の先生」や「家族」、「練馬区の教育相談室の相談員」などで（図表 2-4-2-5）、相談した結果としては、「気が楽になった」などの変化があったという回答が得られた（図表 2-4-2-6）。

他方で、相談したいと思ったり、手助けがあればいいのにと思ったにもかかわらず「相談しなかった」割合は 35%で、相談しなかった理由としては、「意味がないと思った」や「相談先が分からなかった、場所がなかった」などの回答が見られた（図表 2-4-2-4、図表 2-4-2-7）。

【二次・問 6】（単一回答）
中学校を卒業してから現在までに、誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのにと思ったりしたことはありますか。

図表 2-4-2-1　中学校を卒業してから誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことはあるか（二次）



【二次・問 6-1】（自由記述回答）

答えられる範囲で、その内容を教えてください。

図表 2-4-2-2　中学校を卒業してから相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりした内容（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
心理的な不安等	6
勉強・進路のこと	6
友達関係等	4
家族のこと	3
現在の不登校傾向のこと	2
その他	5
無回答（回答欄空欄）	4

※集計対象は、相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことが「ある」と回答した場合のみ。

※24 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

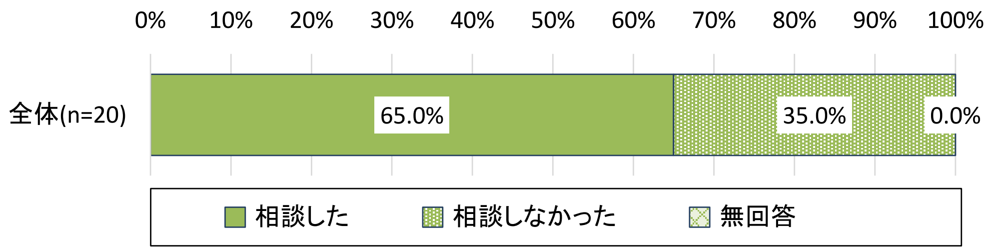
図表 2-4-2-3　中学校を卒業してから相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりした内容（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
心理的な不安等	人間関係でどうしたらいいのか分からないことが多すぎて、何が普通で何が正解なのか分からなくなった。相談して他人の意見が欲しい。
勉強・進路のこと	親をまず信用できなかったので、高校卒業後の進路や一人暮らし。
友達関係等	学校での友達の作り方。
家族のこと	家族がよく喧嘩や暴言を吐いてるので、家に居づらいということ。
現在の不登校傾向のこと	高校２年から全く学校に行けなくなりそのまま現在に至っている。

【二次・問 6-2】（単一回答）

問 6-1 で回答いただいたことについて、実際に誰かに（どこかに）相談しましたか。

図表 2-4-2-4　相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことを実際に誰かに(どこかに)相談したか(二次)



※集計対象は、相談したいと思ったり、手助けなどがあればよいと思ったりしたことについて自由記述での回答があった場合のみ。

【二次・問 6-3】（自由記述回答）

誰に（どこに）相談しましたか。また、相談した結果について、それぞれの相談先ごとに教えてください。

図表 2-4-2-5　実際に相談した相手(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
学校の先生	6
家族	4
練馬区の教育相談室の相談員	3
友人	2
その他	1
無回答（回答欄空欄）	0

※集計対象は、実際に誰かに（どこかに）「相談した」と回答した場合のみ。

※13 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-4-2-6　実際に誰かに(どこかに)相談した結果(二次、自由記述回答を分類)

分類	該当件数
気が楽になった	6
助言を得た、対応してくれた	4
結局は自分次第であった	3
その他	4
無回答（回答欄空欄）	0

※集計対象は、実際に誰かに（どこかに）「相談した」と回答した場合のみ。

※13 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問 7】（自由記述回答）
問 6-1 で回答いただいたことについて、相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのにと思ったりしたのに、相談しなかった理由があれば、教えてください。

図表 2-4-2-7　相談したいと思ったり手助けなどがあればよいと思ったのに、相談しなかった理由（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
意味がないと思った	2
相談先が分からなかった、場所がなかった	2
信頼できなかった	1
つらくなるから	1
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、実際に誰かに（どこかに）「相談しなかった」と回答した場合のみ。
※７件の回答を分類したもの。

2-4-3　自分を理解してくれる人の存在

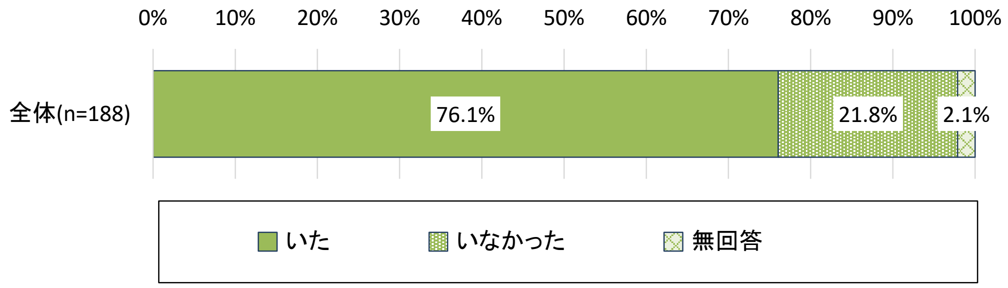
自分のことをよく理解してくれている人が、中学校３年生のときに「いた」割合は約８割、「いなかった」割合が約２割となっている（図表 2-4-3-1）。

「いた」場合、それが誰であったかについては、「家族」（76%）が約８割、「友人・知人」（37%）が約４割、「適応指導教室（トライ・ぱれっと・つむぎ）の先生や相談員」（29%）と「学校の先生・保健室の先生」（25%）がそれぞれ約３割、「スクールカウンセラー・心のふれあい相談員」（22%）が約２割となっている（図表 2-4-3-2）。

自分のことをよく理解してくれている人が、現在「いる」（83%）割合は、中学校３年生のとき（76%）と比べて若干高まっている（図表 2-4-3-3）。よく理解してくれている人は、やはり「家族」（87%）の割合が約９割と最も高いが、「友人・知人」（59%）の割合が約６割となり、中学校３年生のときと比べて高まっている（図表 2-4-3-4）。また、「病院・診療所の先生や相談員等」（15%）の割合は、中学校３年生のとき（８%）と比べて倍近くとなっている。

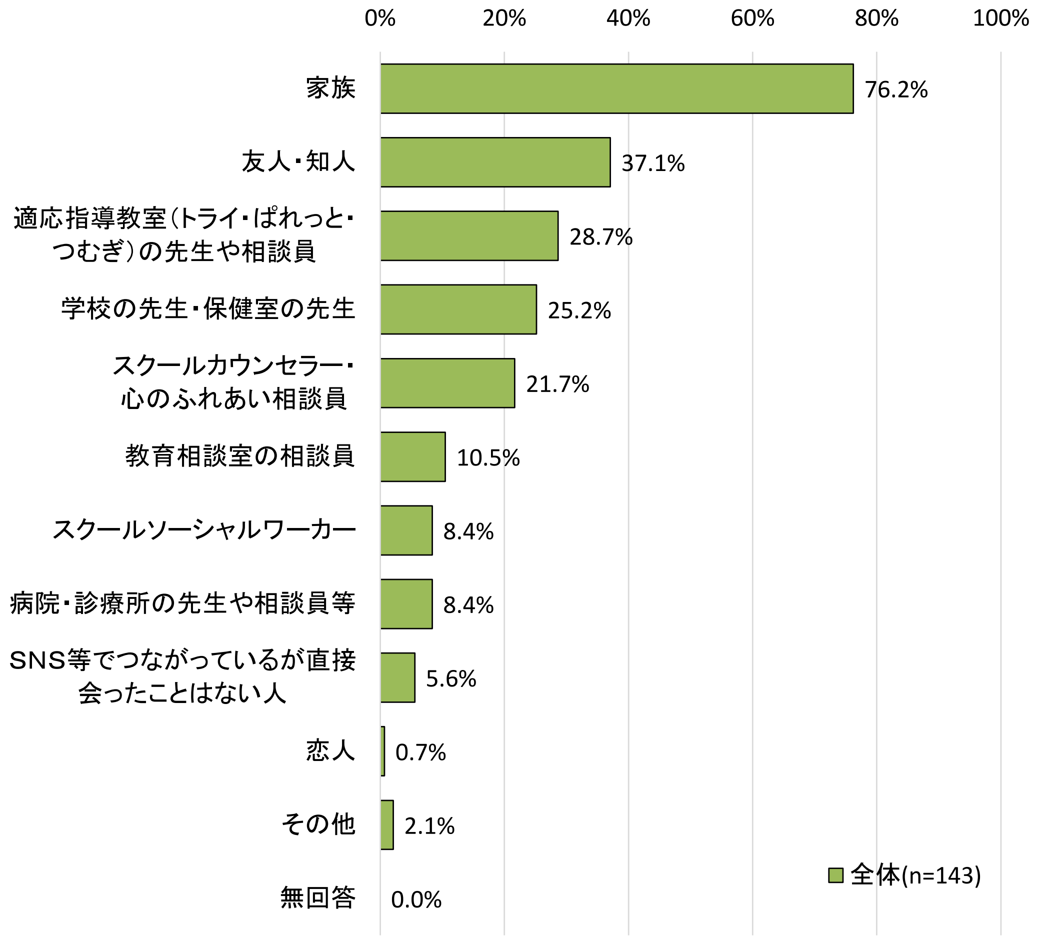
【一次本人・問 13】（単一回答）
あなたが中学校３年生のときに、あなたのことをよく理解してくれている人はいましたか。

図表 2-4-3-1　中学校3年生のときに自身のことをよく理解してくれている人がいたか（一次本人）



【一次本人・問 13-1】（複数回答）
（「いた」と答えた場合）それはだれでしたか。

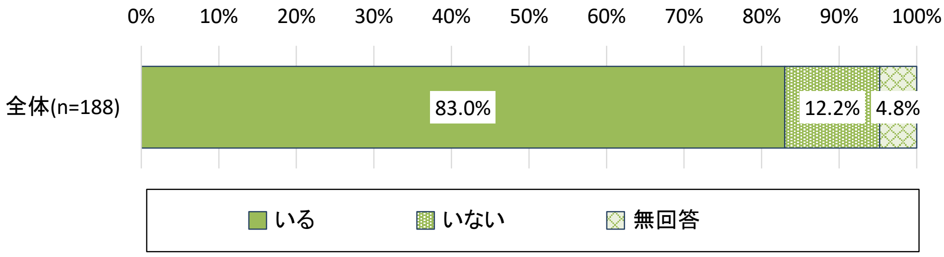
図表 2-4-3-2 中学校3年生のときに自身のことをよく理解してくれている人は誰であったか（一次本人）



※集計対象は、中学校３年生のときに自身のことをよく理解してくれている人が「いた」と回答した場合のみ。

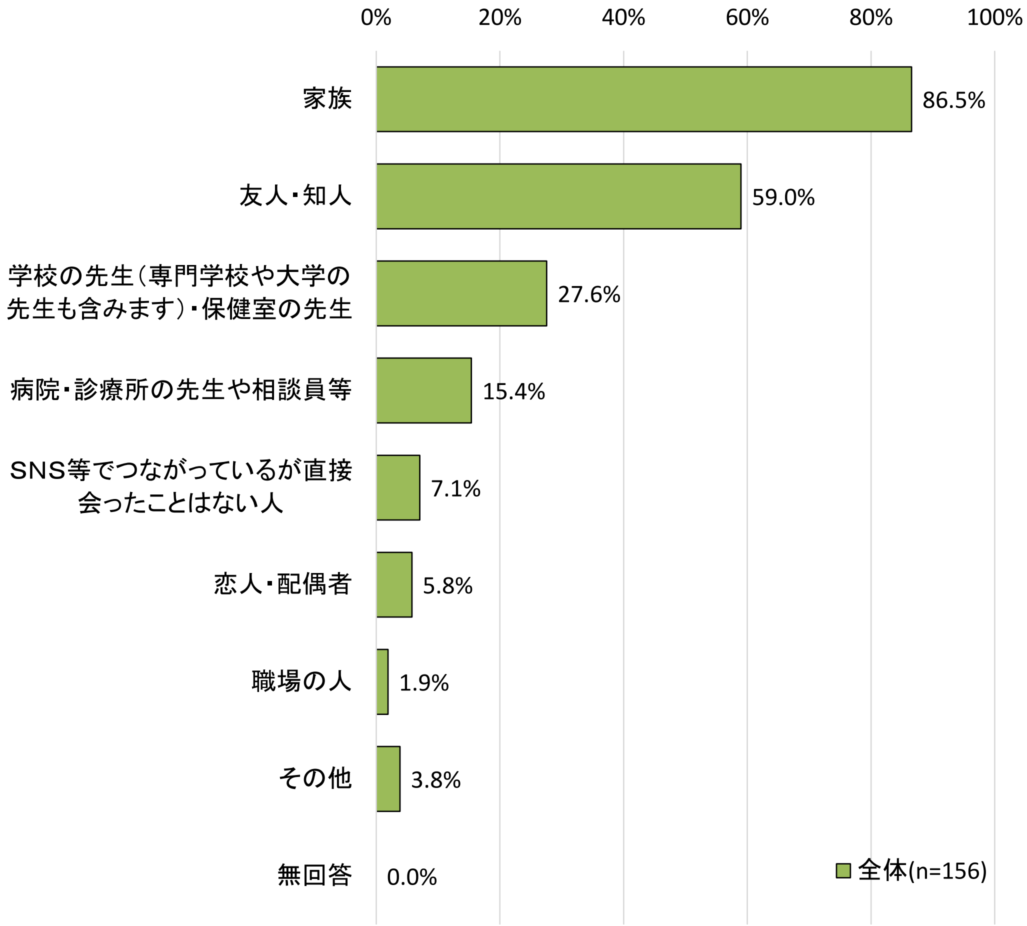
【一次本人・問 8】（単一回答）
現在、あなたのことをよく理解してくれている方はいますか。

図表 2-4-3-3　現在自身のことをよく理解してくれている人がいるか（一次本人）



【一次本人・問 8-1】（複数回答）
（「いる」と答えた場合）それはだれですか。

図表 2-4-3-4　現在自身のことをよく理解してくれている人は誰か（一次本人）



※集計対象は、現在自身のことをよく理解してくれている人が「いる」と回答した場合のみ。

2-4-4　現在の生活状況に対する認識

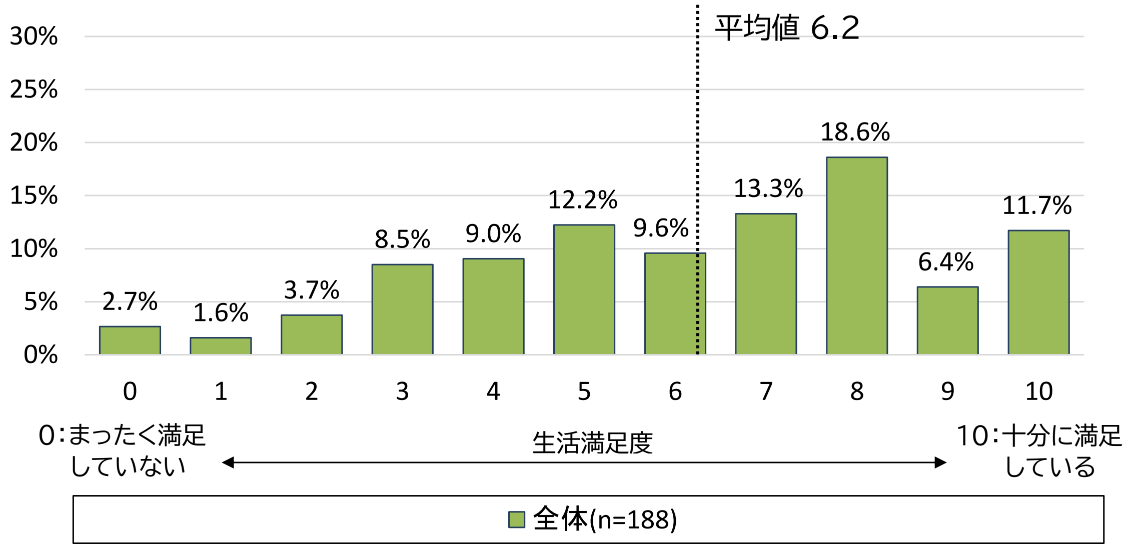
一次調査で尋ねた、最近の生活満足度（0から 10 の 11 段階評価）については、平均が 6.2 で、おおむね生活に満足していると思われる7以上の評価をした方は、約5割となっている（図表 2-4-4-1）。参考として経済協力開発機構の「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2018 年度調査」によると、日本の生徒（高校1年生）の生活満足度の平均値は 6.2 であり（図表 2-4-4-2）、これと比べても差異がなく、全体としては肯定的な回答をする方が多くなっている。

二次調査で、現在の生活が中学校 3 年生のときと比べて良くなったと思うかを尋ねた設問に対しては、「良くなった」（79%）の割合が約 8 割、「悪くなった」（10%）と「変わらない」（12%）の割合がそれぞれ約 1 割であり、多くの方の生活が改善している様子が分かる（図表 2-4-4-3）。

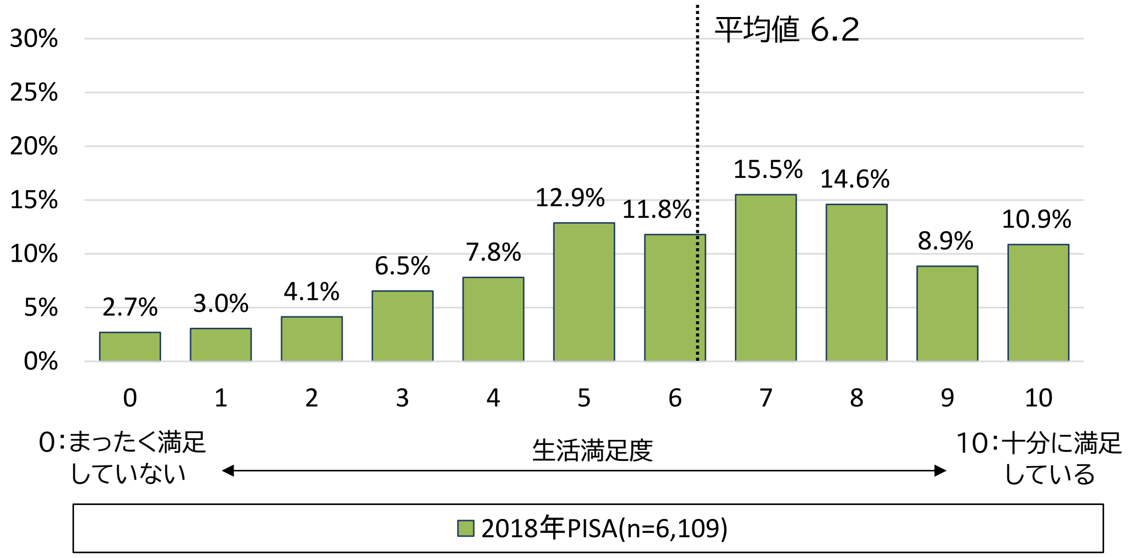
「良くなった」と回答した場合の、良くなった点としては、「学校に通えている（通えた）」、「友達ができた」、「自分に合った学校であった」、「良い先生がいる」、「生活リズム・体調が整った」など複数の点を述べる方が多かった（図表 2-4-4-4、図表 2-4-4-5）。他方で、「悪くなった」場合は、「学校に通えていない、ひきこもりがち」であるとの回答があった（図表 2-4-4-6）。

【一次本人・問 9】（単一回答）
全体として、あなたはあなたの最近の生活全般に、どのくらい満足していますか。「０」（まったく満足していない）から「10」（十分に満足している）の数字で、あてはまるものを選んでください。

図表 2-4-4-1　最近の生活全般の満足度（一次本人）[27]



図表 2-4-4-2　参考：日本全国の高校１年生の生活満足度[28]
（OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）2018 年度調査）[29]



出典：OECD,PISA2018 Database より練馬区作成

---

[27] 無回答の割合（2.7%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。

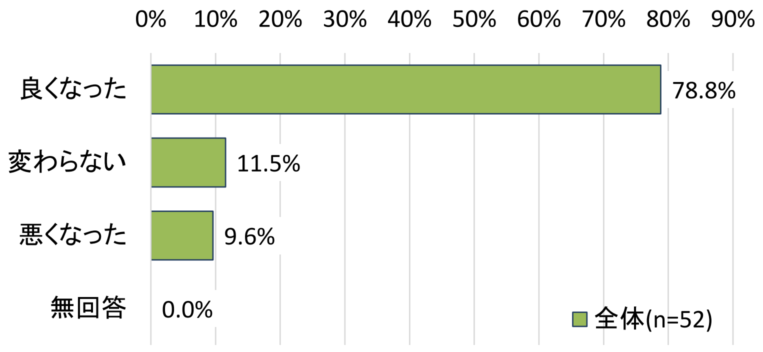
[28] 無回答の割合（1.3%）をグラフから省略しているため、各回答割合を足し合わせても 100%とならない。
また、OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）については以下を参照
https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/index.html#PISA2018

[29] データは右の URL より入手した。https://www.oecd.org/pisa/data/2018database/

【二次・問 8】（単一回答）

全体として、あなたの生活は、中学校３年生の時とくらべて良くなったと思いますか。

図表 2-4-4-3 全体として、生活が中学校 3 年生のときと比べて良くなったと思うか（二次）



【二次・問 8-1】（自由記述回答）

（「良くなった」または「悪くなった」と回答した場合）どのようなことが良くなった、または悪くなったと思いますか。また、どうしてそのようになったと思いますか。

図表 2-4-4-4 どのようなことが良くなったと思うか、また、どうしてそのようになったと思うか（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
学校に通えている（通えた）	18
友達ができた	13
自分に合った学校であった	7
良い先生がいる	6
生活リズム、体調が整った	6
積極的になれた、不安等がなくなった	5
コミュニケーションできるようになった	4
大学進学、就職等が決まった	3
環境が変わってうまくいった	2
その他	7
無回答（回答欄空欄）	1

※集計対象は、中学校３年生のときと比べて生活が「良くなった」と回答した場合のみ。

※41 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-4-4-5 どのようなことが良くなったと思うか、また、どうしてそのようになったと思うか（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
学校に通えている（通えた）	皆勤賞を取ることができた。信頼できる先生がいる。信頼できる友達がいる。学校を休みたいと思っても休まず、それが自信につながっている。
	少しずつだけど自分のペースで学校に行くことができて友達もできたから。
	学校に通い友達がいる。やりたいことがある。
友達ができた	友達との関係が良くなった。クラスの感じも良くなった。先生が優しく接してくれるのと、生徒の心が優しいから。
	楽しく高校に通っていて、共通の趣味を持った友達ができたから。不安定になることがなくなった。
自分に合った学校であった	同じ境遇の人が多くいる学校に進学したので心地よい学校生活を送れています。
良い先生がいる	高校にとても楽しく通えています。担任の先生もとても優しく、進路の相談などでとても親身になって教えてくれます。高校の先生全員とても良くしてくれるおかげです。
生活リズム、体調が整った	中学生の学校に行かなくなった時期と比べて、今は毎日学校に通えて規則正しい生活を送れているから。
積極的になれた、不安等がなくなった	内気な気持ちがなくなり、自分で何か新しいことを見つけるようになったりした。
コミュニケーションできるようになった	当時ほど他者との意思疎通が困難ではなくなったから。
大学進学、就職等が決まった	高校から大学に進学し、未来が明るく見える。
環境が変わってうまくいった	環境が変わったから。自分が行きたい高校だったから。

図表 2-4-4-6 どのようなことが悪くなったと思うか、また、どうしてそのようになったと思うか（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
学校に通えていない、ひきこもりがち	4
全て	1
無回答（回答欄空欄）	0

※集計対象は、中学校 3 年生のときと比べて生活が「悪くなった」と回答した場合のみ。
※ 5 件の回答を分類したもの。

2-4-5　ICT 機器を活用した学習の経験、学習方法に関する考え

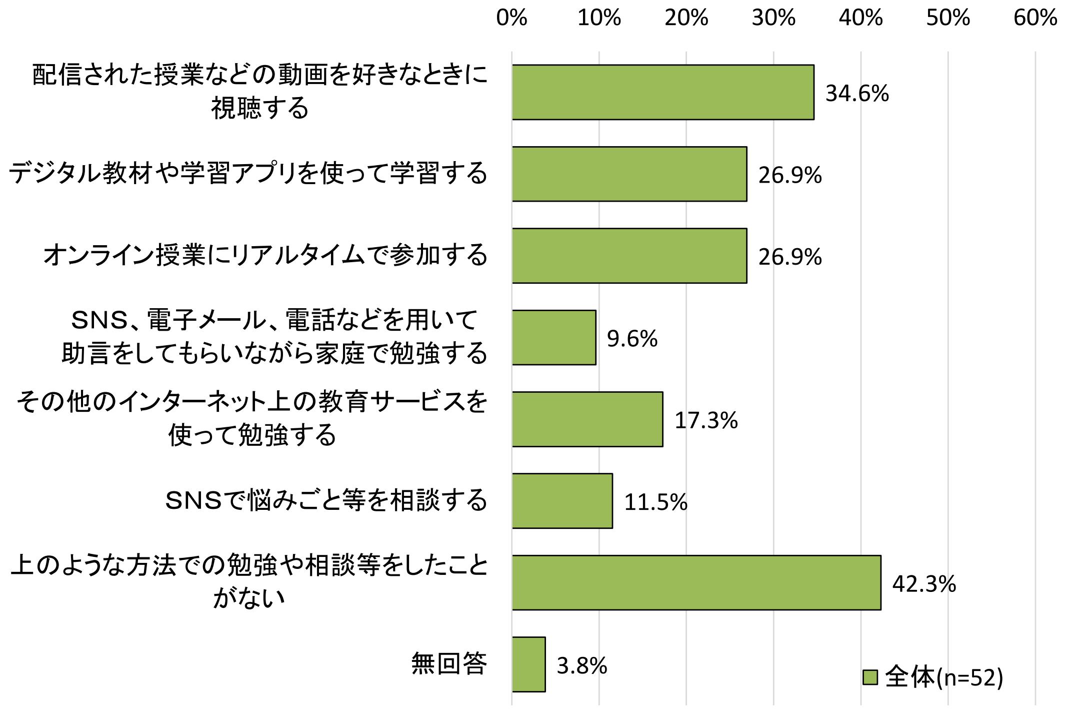
ICT 機器を活用した学習等の経験については、半数以上（54%）の方で何らかの経験があった[30]。中学校卒業後、高校あるいは大学等で利活用していると思われる。内容としては、「配信された授業などの動画を好きなときに視聴する」（35%）、「デジタル教材や学習アプリを使って学習する」（27%）、「オンライン授業にリアルタイムで参加する」（27%）が 3 割前後となっている（図表 2-4-5-1）。

ICT 機器を活用した学習等に関して、使ってみてよかった点としては、「自分のペースでできる」や「繰り返しできる」などの回答が得られている（図表 2-4-5-2、図表 2-4-5-3）。

【二次・問 5】（複数回答）

現在までの間に、次のような方法で勉強や相談等をしたことがありますか。

図表 2-4-5-1 ICT 機器を活用した勉強や相談等の経験（二次）



30 回答者全体（100%）から、「上のような方法での勉強や相談等をしたことがない」（42.3%）と「無回答」（3.8%）を除いた割合。

【二次・問 5-1】（自由記述回答） 問５で回答いただいたようなICT機器（スマートフォン、タブレット、パソコン等）を活用した勉強や相談等のサービスについて、どのような使い方があなたに合っていると思いますか。使ってみてよかったものや、よかった点について、できるだけ具体的に教えてください。

図表 2-4-5-2 ICT 機器（スマートフォン、タブレット、パソコン等）を活用した勉強や相談等のサービスについて使ってみてよかった点（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
自分のペースでできる	11
繰り返しできる	6
人目を気にしなくてよい	3
自分には合わなかった	3
分からないことを調べられる	2
その他	5
無回答（回答欄空欄）	3

※集計対象は、ICT 機器（スマートフォン、タブレット、パソコン等）を活用した勉強や相談等のサービスを利用したことがあると回答した場合のみ。
※28 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

図表 2-4-5-3 ICT 機器（スマートフォン、タブレット、パソコン等）を活用した勉強や相談等のサービスについて使ってみてよかった点（二次、自由記述の代表的な回答例）

分類	回答内容例
自分のペースでできる	学習アプリは自分のペースで好きな時間に勉強ができるのでよかった。
	配信された授業の動画は自分のペースで休憩しながら見ることができるのでよかった。
繰り返しできる	動画で見る勉強は、分からなかったところを何度でも巻き戻すことができ、「分からないままにしておかない」という癖がついた。
人目を気にしなくてよい	落ち着いた自分の部屋で受けられる。人目を気にせず授業を受けることができるのは良い。
自分には合わなかった	ネット授業は心が弱かったのでどうしてもサボりがちになり、ネットの環境につながっているせいでどうしてもほかのことをしてしまった。やる気のある人にはかなりいいサービスだが、いつでもサボれるので実際に人に教えてもらう方が場の空気などもあり集中できた。
分からないことを調べられる	分からないことがあったらすぐ調べられるところ。

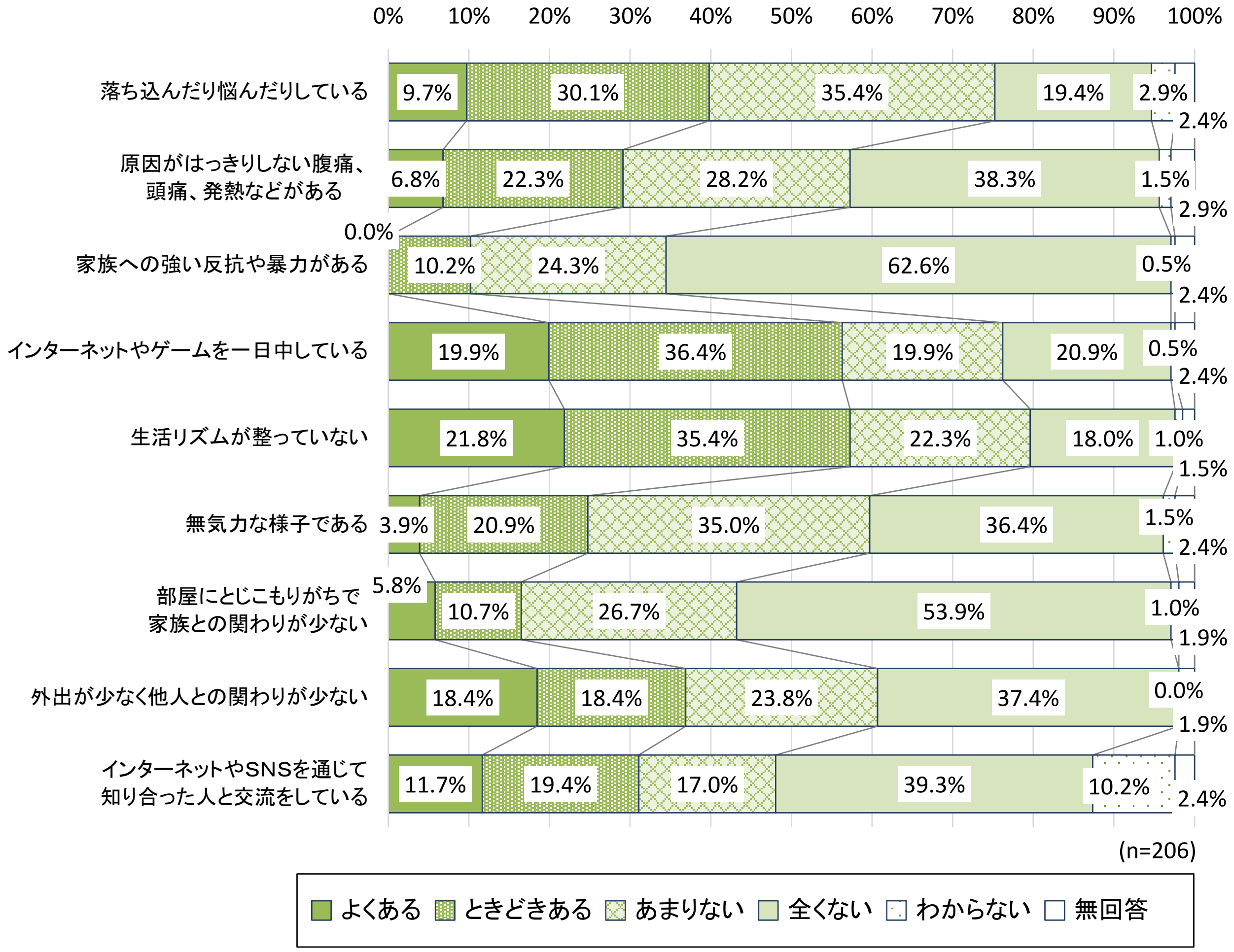
2-4-6　保護者から見た現在の子供の様子

保護者から見た、現在（調査回答時点）の子供の様子について、「よくある」と「ときどきある」を合わせた割合を見ると、「生活リズムが整っていない」（57%）、「インターネットやゲームを一日中している」（56%）が5割以上と高い（図表 2-4-6）。

ただし、中学校3年生のときの子供の状況（p.26 図表 2-2-5）と比較すると、「インターネットやSNS を通じて知り合った人と交流をしている」のみ若干高くなっているものの、ほかの項目については全て該当割合が低下しており、生活状況が改善している傾向にあることが分かる。

【一次保護者・問 13】（単一回答）
お子さんの現在の様子についてお聞きします。次のようなことは、どのくらいありますか。

図表 2-4-6　子供の現在の様子（一次保護者）



2-5　今後の展望等

2-5-1　将来に対する夢や希望

一次調査で尋ねた、将来の夢や希望の有無については、「ある」（33%）と「ぼんやりとある」（47%）を合わせた割合は約８割となっている（図表 2-5-1-1）。

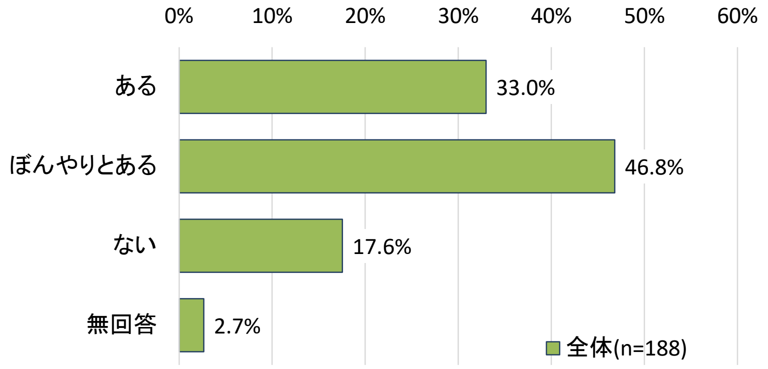
二次調査で尋ねた、これから 5 年程度の期間での目標や希望については、「進学」や「就職」に関する内容が多く、「資格取得」や「一人暮らし、自立」に関するものもあった（図表 2-5-1-2）。

それらの目標や希望を実現するために欲しい手助けとしては、「学習・進学の支援」、「仕事・就職の支援」、「相談場所」などがあった（図表 2-5-1-3）。

【一次本人・問 18】（単一回答）

自分の将来について夢や希望がありますか。

図表 2-5-1-1　将来の夢や希望の有無（一次本人）



【二次・問 9】（自由記述回答）
これから 5 年程度の期間で、進路や就職、生活のことなどについて、現時点の目標や希望があれば教えてください。

図表 2-5-1-2 これから 5 年程度の期間での目標や希望（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
進学	20
就職	10
資格取得	7
一人暮らし、自立	5
アルバイト	2
未定、特になし	3
その他	9
無回答（回答欄空欄）	5

※52 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

【二次・問 9】（自由記述回答）
問 9 で回答いただいた目標や希望を実現するために、「このような手助けが欲しい」ということがありましたら、教えてください。

図表 2-5-1-3 目標や希望を実現するために欲しい手助け（二次、自由記述回答を分類）

分類	該当件数
学習・進学の支援	6
仕事・就職の支援	4
相談場所	4
分からない	2
その他	5
特になし	18
無回答（回答欄空欄）	11

※集計対象は、目標や希望について自由記述での回答があった場合のみ（「未定、特になし」の分類に該当する回答をしていた場合は集計に含む）
※47 件の回答を分類したもの。複数の分類に該当する場合はそれぞれでカウントした。

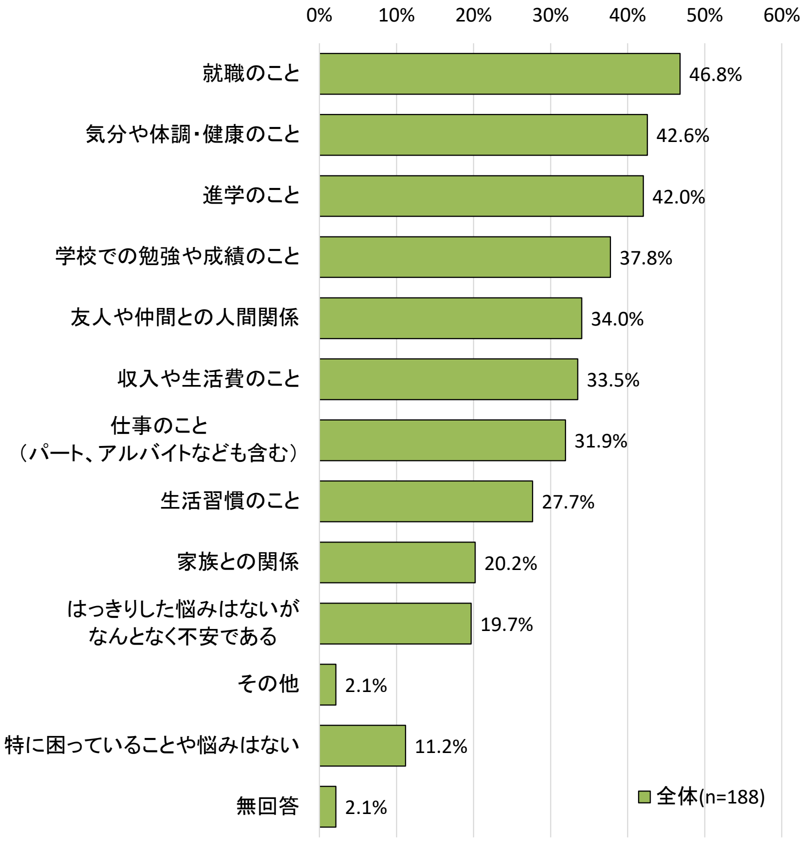
2-5-2　不安や悩みごと、必要とする手助け

これからの生活についての不安や悩みごとの内容は多岐にわたる。一番割合が高いものは、「就職のこと」（47%）で約 5 割、ほかに「気分や体調・健康のこと」（43%）、「進学のこと」（42%）、「学校での勉強や成績のこと」（38%）が約 4 割、「友人や仲間との人間関係」（34%）、「収入や生活費のこと」（34%）、「仕事のこと（パート、アルバイトなども含む）」（32%）が約 3 割となっている（図表 2-5-2-1）。

誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのにと思う内容も多岐にわたり、「人間関係について」（32%）、「進学について」（31%）、「仕事につくことについて」（31%）が約 3 割となっている（図表 2-5-2-2）。

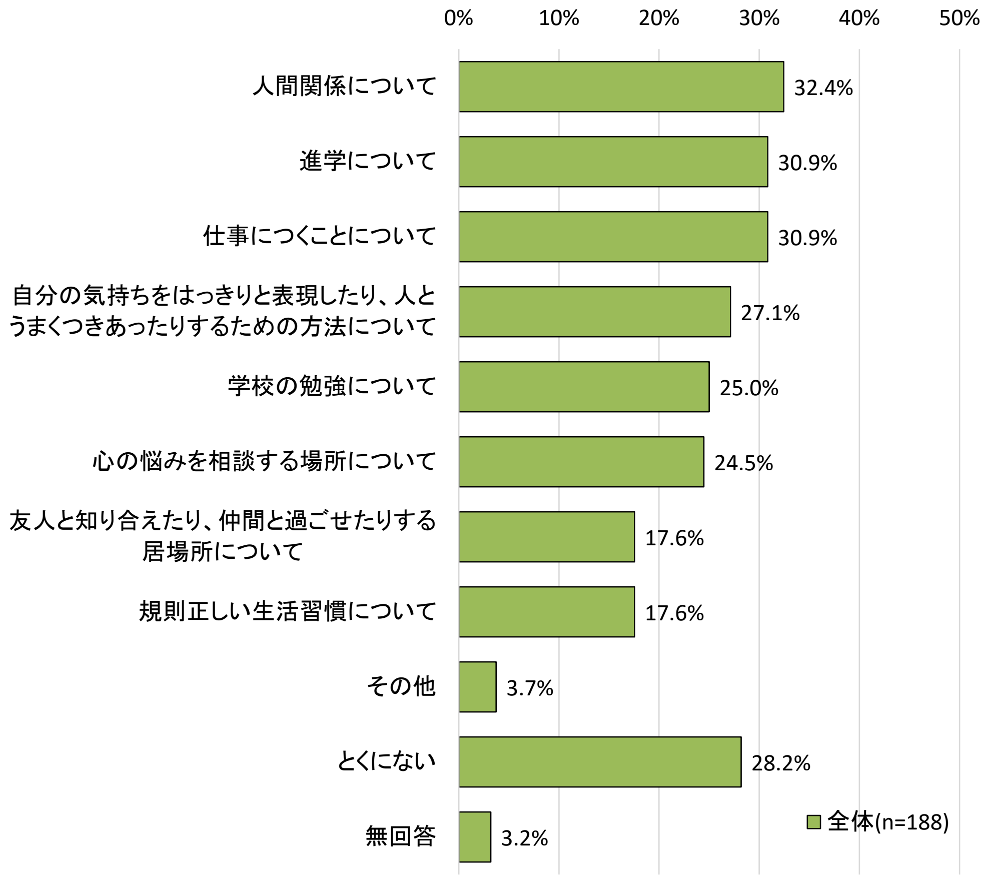
【一次本人・問 19】（複数回答）
あなたはこれからの生活について、次のような不安や悩みごとがありますか。

図表 2-5-2-1　これからの生活についての不安や悩みごと（一次本人）



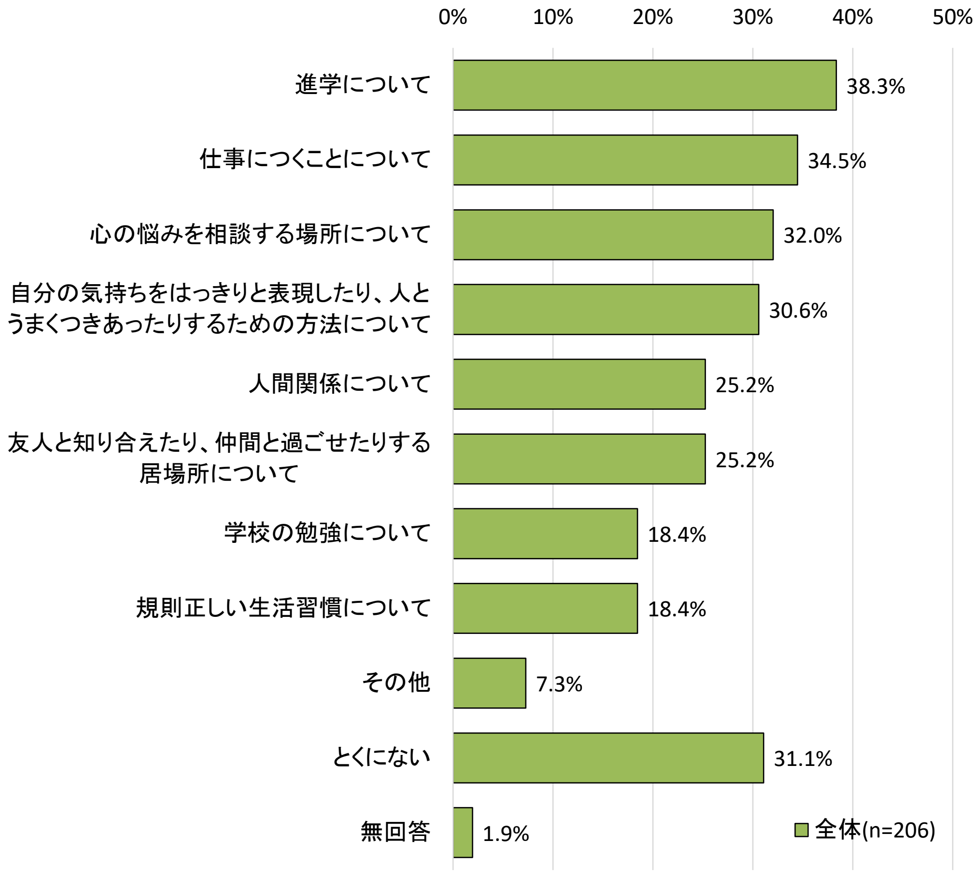
【一次本人・問 20】（複数回答）
これからの生活において、次のようなことについて誰かに相談したいと思ったり、手助けなどがあればいいのにと思うことはありますか。

図表 2-5-2-2 これからの生活において、誰かに相談したいと思ったり、手助けがあればいいのにと思うこと（一次本人）



2-5-3　保護者が必要とする手助け

保護者の方自身が、現在、またはこれからの生活において、子供のことについて誰かに相談できたり、手助けがあればいいのにと思うこととして、最も割合が高いものは「進学について」（38%）となっている。ほかに「仕事につくことについて」（35%）、「心の悩みを相談する場所について」（32%）、「自分の気持ちをはっきりと表現したり、人とうまくつきあったりするための方法について」（31%）が、3 割以上となっている（図表 2-5-3）。

【一次保護者・問 14】（複数回答）
現在、またはこれからの生活において、お子さんに関する次のようなことについて、保護者の方ご自身が、誰かに相談できたり、手助けなどがあればいいのにと思うことはありますか。

図表 2-5-3 現在、またはこれからの生活において、子供のことで保護者自身が誰かに相談できたり手助けがあればいいのにと思うこと（一次保護者）